

注3

大学番号：国078

[平成28年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

意見伺い

大分大学 福祉健康科学部 福祉健康科学科

注2

【意見伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 大分大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	総務部企画課企画係
職名・氏名	企画係長・岡嶋 ^{オカシマ} あゆみ
電話番号	097-554-7787
（夜間）	097-554-7787
F A X	097-554-7413
e-mail	kikaku@oita-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学部名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学新設の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

福祉健康科学部

<福祉健康科学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	23
4. 既設大学等の状況	24
5. 教員組織の状況	26
6. 留意事項等に対する履行状況等	47
7. その他全般的事項	64

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 大分大学

(2) 大学名 大分大学

(3) 大学の位置

〒870-1192
大分県大分市大字旦野原700番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	(キタノ セイゴウ) 北野正剛 (平成23年10月)		
学部長	(キヌガサ カズシゲ) 衣笠一茂 (平成28年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
福祉健康科学部 福祉健康科学科 学士(福祉健康科学)	保健衛生学関係 (リハビリテーション関係), 社会学・社会福祉学関係, 文学関係	4年	100人	- 年次人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「意見伺い」又は「事前伺い」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	100人	()	100人	()	()	()	()	()	()	()	1.04倍	
志願者数	422	()	451	()	()	()	()	()	()	()		
受験者数	275	()	291	()	()	()	()	()	()	()		
合格者数	109	()	115	()	()	()	()	()	()	()		
B 入学者数	104	()	105	()	()	()	()	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	1.04		1.05									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで**記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	104 [-] (-)	- [-] (-)	105 [-] (-)	- [-] (-)					
2年次	/		103 [-] (-)	- [-] (-)					
3年次	/		/						
4年次	/		/		/				
計	104 [-] (-)		207 [-] (-)						

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	104 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	他の教育機関への入学(1人)	0.96 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成29年度 入学者	105 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	人	平成30年度	人	人		%
			平成31年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	人	平成31年度	人	人		%
合 計	209 人	1 人					0.47 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<福祉健康科学部 福祉健康科学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	導入・転換	生涯学習論入門	1・2・3・4前		2							兼 1	
	スポーツと生活	1・2・3・4前		2								兼 2	
	大学開放論-社会人の学びと大学生の学び-	1・2・3・4後		2								兼 1	
	学習ボランティア入門	1・2・3・4前 後		2								兼 1	教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
	中小企業の魅力の発見と発信～インターンシップセミナー～	1・2前		2								兼 1	
	木材加工の技術	1・2・3・4後		2								兼 2	
	コンピュータ科学入門	1・2・3・4前		2								兼 8	担当教員辞任のため教員を追加(28)
	初等教育のためのICT活用	1・2・3・4後 未開講 前		2								兼 3	隔年開講のため(29) 2 担当教員見直しのため(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
	人類の知的遺産と向き合う	1・2・3・4後		2								兼 1	
	基礎ゼミ	1前	2			7		7	4				教育課程の充実及び教員負担軽減のため担当教員の追加及び変更(29) 担当 阿南雅也(講師)(追加)、 栄留(堀)里美(助教)(衣笠一茂から変更) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当教員変更(28) 担当 松本由美(講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	社会理論と社会システム	1前		2		1							2 担当教員の見直しのため(29)
	ものづくり入門	1・2・3・4前		2								兼 3	教育内容の充実のため、科目を追加(28)
	情報処理入門	1・2・3・4前 前後		2								兼 1	教育内容の充実のため配当学期を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(28)
	男女共同参画入門	1・2・3・4後		2								兼 2	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	分大キャンパスライフ入門	1前		2								兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	職業とキャリア開発	1・2・3・4後		2								兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～	1・2・3・4前		2								兼 2	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～	1・2・3・4後		2								兼 2	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	コミュニケーション入門Ⅰ	1・2・3・4前		2								兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
	コミュニケーション入門Ⅱ	1・2・3・4後		2								兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
大学と社会	1・2・3・4前		2								兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
文化・国際	西洋思想の源流	1・2・3・4後 未開講 1・2・3・4前		2								兼 1	教育効果向上のため配当学期の変更(29) 隔年開講のため(28)
	大分美術史概論	1・2・3・4前 未開講 1・2・3・4前		2								兼 1	通常開講(29) 隔年開講のため(28)
	器楽の楽しみ	1・2・3・4前 前後		2								兼 2	教育内容の充実のため配当学期を追加(29)

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教養 教育 科目	文化・国際 国文学作品研究	1・2前										兼 1 教育内容の充実のため配当年次を追加(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1前		2								
	古典文学講読	1・2前										兼 1 通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2前		2								
	水彩画の魅力	1・2・3・4前										兼 1 通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4前		2								
	手作り絵本の楽しみ	未開講										兼 1 隔年開講のため(29)
		未開講 1・2・3・4後		2								
	西洋音楽史入門	未開講										兼 1 教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4後		2								
	文化人類学	1・2・3・4前										兼 1 通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4前		2								
	イギリス近代史	1・2・3・4前										兼 1 通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4前		2								
	前近代日本の国家と社会	1・2・3・4後						1				
	医学史のプロムナード	1・2・3・4前										兼 1 教育効果向上のため配当学期を変更 (29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4後		2								
	中国史学緒論	未開講										兼 1 教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
		未開講 1・2・3・4前		2								
	東アジアの諸相	未開講 前										兼 1 隔年開講のため(29) 教育効果向上のため、配当年次を 変更(28)
		未開講 1・2・3・4後		2								
	国際関係入門	未開講 1・2・3・4後										兼 1 隔年開講のため(29)
	バロック音楽の世界	1・2・3・4後										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	ハンゲルとその文化 I	1・2・3・4前										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	ハンゲルとその文化 II	1・2・3・4後										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	国際健康コンシェルジュ養成講座	1・2・3・4前										兼 4 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
南アジアの生活文化を知ろう	1・2・3・4前										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
プロダクトデザイン	1・2・3・4後										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
美術文化論	1・2・3・4後										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
「現代音楽」とはなにか	1・2・3・4前										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
文章構成法	1・2・3・4前										兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
英語ゼミナールA	後										兼 1 教育効果向上のため配当学期を変更 (29)	
	2・3・4前		2									
英語ゼミナールB	2・3・4前										兼 1	
英語ゼミナールD	2・3・4後										兼 1	
英語ゼミナールE：英語運用力養成訓練Ⅰ	2・3・4前										兼 1	
英語ゼミナールF：英語運用力養成訓練Ⅱ	2・3・4後										兼 1	
応用中国語Ⅰ	2・3・4前										兼 1	
応用中国語Ⅱ	2・3・4後										兼 1	
応用ドイツ語Ⅰ	2・3・4前										兼 1	
応用ドイツ語Ⅱ	2・3・4後										兼 1	
応用フランス語Ⅰ	2・3・4前										兼 1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	文化・国際	応用フランス語Ⅱ	2・3・4後		2							兼 1		
		海外短期語学研修	1・2・3・4前後		2							兼 1	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29)	
		初等教育のためのものづくり	1・2・3・4後 1・2・3・4前		2							兼 2 兼 3	主題区分の見直しに伴い「自然・科学」から「文化・国際」へ主題異動及び担当教員の見直し(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更(28)	
		アカデミック・イングリッシュⅠ(リーディング&ライティング)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		アカデミック・イングリッシュⅡ(スピーキング)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		日本語文法分析	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		留学英語Ⅰ(リスニング)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		留学英語Ⅱ(リーディング)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		狂言で大分を学ぶ	1・2・3・4前		2							兼 2	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		国際理解教育：サステナビリティ	1・2・3・4前後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		トビタテ留学準備英語	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		ビジネスジャパニーズ演習3	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		ビジネスジャパニーズ演習4	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		ミニトビタテ海外研修	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(韓国・ソウル女子大学校Ⅰ)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(韓国・ソウル女子大学校Ⅱ)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(韓国・培材大学校)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(韓国・釜山大学校)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(英国・セントラルランカシャー大学Ⅰ)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(英国・セントラルランカシャー大学Ⅱ)	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(台湾・東海大学Ⅰ)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(台湾・東海大学Ⅱ)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(中国・江漢大学)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(ドイツ・ライプツィヒ大学)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		海外短期語学研修(フィリピン・アテネオマニラ大学)	1・2・3・4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(29)	
		ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅰ	1・2・3・4後		2							兼 1		
		ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	1・2・3・4前		2							兼 1		
		日本語学Ⅰ	1・2・3・4後		2							兼 1		
		表現技術	後											科目名の見直し及び教育効果向上のため配当学期の変更(29)
		表現技術(口頭発表)	1・2・3・4前		2							兼 1		
	言語と社会	1・2・3・4後		2							兼 1			
	海外研修	1・2・3・4通		2		1	1							
	美の世界	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(28)		
	図像学の世界	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(28)		
	大分事情	1・2・3・4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加(28)		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養教育科目	社会・経済	未開講										教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)	
		現代国際政治と日本	2・3・4後		2						兼 1		
		未開講											隔年開講のため(29)
		現代社会と法	1・2・3・4後		2						兼 1		
		未開講											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
		税金入門	1・2・3・4前		2						兼 1		
		日本国憲法	1・2・3・4後		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		日本のマネジメント	1・2・3・4前		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		会社組織のしくみ	1・2・3前		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		会社法入門	1・2・3・4後		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		革新的企業経営	1・2・3・4前		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		企業の価格戦略と消費者の行動	1・2・3・4前		2						兼 1		
		未開講											隔年開講のため(29)
		企業ファイナンス入門	1・2・3・4後		2						兼 1		
		未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
金融とわたしたちの生活	1・2・3・4後		2						兼 1				
未開講											隔年開講のため(29)		
グローバル経済入門	1・2・3・4前		2						兼 1				
未開講											隔年開講のため(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更(28)		
経営学の基礎	1・2・3・4後		2						兼 1				
未開講											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)		
経済学で物事をみる	1・2・3・4後		2						兼 1				
未開講											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)		
経済学を学ぶ	1・2・3・4前		2						兼 1				
未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)		
経済統計を読む	1・2・3・4前		2						兼 1				
未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)		
経済と倫理	1・2・3・4後		2						兼 1				
未開講											隔年開講のため(29)		
資本市場論	1・2・3・4前		2						兼 1				
未開講											通常開講、教育内容の充実のため開講年次を追加(29) 隔年開講のため(28)		
消費者と企業	1・2・3・4後		2						兼 1				
未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)		
食と農の地理学	1・2・3・4前		2						兼 1				
未開講											隔年開講のため(29)		
日本経済入門	1・2・3・4前		2						兼 1				

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手		
教養 教育 科目	社会・経済 日本の財政	未開講 前 1-2-3-4後		2							兼 1	隔年開講のため(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
	人間・労働と技術の現代史	未開講 1-2-3-4前		2							兼 1	隔年開講のため(29)
	経済発展と貧困削減	未開講 未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
	企業と労働	1-2-3-4前		2							兼 1	教養教育課程見直しに伴う科目廃止 (29) 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)
	社会調査の基礎	未開講 1-2-3-4前		2							兼 1	隔年開講のため(29) 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)
	日常生活の法律	1-2-3-4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	社会科学方法論入門	1-2-3-4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	会計と社会	2-3-4前		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	道路施策概論	1-2-3-4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	簿記の基礎	1-2-3-4後		2							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
	知的財産入門	1-2-3-4後		1							兼 1	教育内容の充実のため、科目を追加 (29)
自然 ・ 科学	化学史	1-2-3-4後		2							兼 1	
	確率と統計入門	未開講 前 1-2-3-4後		2							兼 1	隔年開講のため(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更 (28)
	環境と感染症	未開講 未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 教育改革に伴う実施体制の見直しの ため(28)
	環境と生物	未開講 未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
	幾何学	1-2-3-4後 未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	通常開講(29) 隔年開講のため(28)
	ゲーム理論と社会	未開講 1-2-3-4前		2							兼 1	隔年開講のため(29)
	原子と分子	1-2-3-4前		2							1 兼 3	担当教員の見直しのため(28)
	現代天文学と生命	未開講 1-2-3-4前		2							兼 1	隔年開講のため(29)
	栽培学習論	未開講 1-2-3-4前		2							兼 2	隔年開講のため(29)
	進化と多様性の生物学	1-2-3-4後		2							兼 1	
	数学と文化	1-2-3-4前		2							兼 1	
	数学入門	未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	隔年開講のため(29)
	生活の化学	未開講 1-2-3-4前		2							兼 1	教養教育課程見直しに伴う科目廃止 (29) 隔年開講のため(28)
	生命観の変遷	1-2-3-4前		2							兼 1	
	地生態学	1-2-3-4後 未開講 1-2-3-4後		2							兼 1	通常開講(29) 隔年開講のため(28)
抽象化と代数学	前 1-2-3-4後		2							兼 1	教養教育課程見直しに伴う科目廃止 (29) 教育効果向上のため、配当年次を変更 (28)	

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教養 教育 科目	自然・ 科学	1-2-3-4前 未開講										通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4前		2								兼 1
		1-2-3-4後		2								1 兼 3 担当教員の見直しのため(28)
		1-2-3-4後 未開講										通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2								兼 3
		1-2-3-4後 未開講										通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		後 前										教養教育課程の見直しに伴う配当学 期の変更(29) 教育効果向上のため、配当年次を変 更(28)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		未開講										隔年開講のため(29)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		1-2-3-4前		2								兼 3
		1-2-3-4前		2								兼 3
		1-2-3-4後		2								兼 3
		1-2-3-4後		2								兼 2
		1-2-3-4後		2								兼 4 兼 1 教養教育課程見直しに伴う科目廃止 (29)
		1-2-3-4前		2								4 兼 5 担当教員の退職のため(28)
		未開講										隔年開講のため(29)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		未開講										教養教育課程の見直しに伴い、開講 年次を変更(29) 教育内容充実のため配当年次を追 加(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		1-2-3-4後		2								兼 8 担当教員辞任のため教員を追加(28)
		後										主題区分の見直しに伴い、「自然・ 科学」から「文化・国際」へ主題異 動(29) 教育効果向上のため、配当年次を変 更(28)
		1-2-3-4前		2								兼 3
		未開講										隔年開講のため(29)
		1-2-3-4後		2								兼 1
		1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)
		1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)
		1-2-3-4前		2								兼 2 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)
	1-2-3-4前		2								兼 5 主題区分の見直しに伴い、「福祉・ 地域」から「自然・科学」へ主題異 動(29)	
	1-2-3-4前		2								兼 4 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 9 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 2 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	
	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追 加(29)	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教養 教育 科目	福祉・ 地域 地域における仕事と社会	1-2-3-4後 未開講										通常開講(29) 隔年開講のため(28)	
		1-2-3-4後		2							兼 1		
	子育て支援の地理学	1-2-3-4前 未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4前		2							兼 1		
	地域の住まい論	未開講 前											隔年開講のため(29) 教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
		1-2-3-4後		2							兼 1		
	自然災害と防災の科学	1-2-3-4前		2								兼 5	主題区分の見直しに伴い、「福祉・地域」から「自然・科学」へ主題異動(29)
	建築環境計画	1-2-3-4前		2								兼 6	
	カラダの見方・考え方	1-2-3-4後		2								兼 1	
	地球環境とエネルギー入門	1-2-3-4前		2								兼 2	
	社会福祉と自立思想	1-2-3-4後		2		1							
	障がい者福祉入門	1-2-3-4前 未開講											通常開講及び教育効果向上のため配当学期の変更(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2					1				
	アルコール関連問題入門	未開講 未開講											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2				1					
	現代の福祉政策	未開講 1-2-3-4後		2				1					隔年開講のため(29)
	市民参加と現代社会	未開講 未開講											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2							兼 1		
	福祉専門職の来し方	1-2-3-4前 未開講											通常開講及び教育効果向上のため配当学期の変更(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4後		2						1			
	福祉テクノロジー入門	後 1-2-3-4前		2								兼 1	教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
	地域と財政	未開講 1-2-3-4前		2									教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4前									兼 1		
東南アジアの社会と教育	未開講 未開講 1-2-3-4前		2								兼 1	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)	
保育学基礎論	未開講 1-2-3-4後											隔年開講のため(29) 教育内容充実のため配当年次を追加(29)	
	1後		2							兼 1			
学びと生活の探求	未開講 未開講 1-2前											教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更(29) 隔年開講のため(28)	
	1-2前		2							兼 1			
地域社会へのまなざし	1-2-3-4後 未開講											通常開講(29) 隔年開講のため(28)	
	1-2-3-4後		2							兼 1			
交通から見た地域社会	1-2-3-4後 未開講		2								兼 1	通常開講(29) 隔年開講のため(28)	
世界・日本・大分の農業経済論	1-2-3-4前		2								兼 1		
大分の水I	1-2-3-4前		2								兼 6		
大分の水II	1-2-3-4後		2								兼 2		
環境の化学入門	未開講 1-2-3-4前		2								兼 2	隔年開講のため(29)	
自然体験活動の理論と実践	1-2-3-4前		2								兼 1		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教 養 教 育 科 目	福祉・地域 地域ガバナンスとグローバルガバナンスを考える	1-2-3-4後 未開講		2								兼 1 通常開講(29) 隔年開講のため(28)	
		1-2-3-4後										兼 1 隔年開講のため(29)	
	地域と情報	1-2-3-4後 未開講		2								兼 1 通常開講及び教育効果向上のため配 当学期の変更(29) 隔年開講のため(28)	
	現代における青年の心理	1-2-3-4前 未開講		2			1					隔年開講のため(29)	
	現代社会と心理学	1-2-3-4後 未開講		2		3	1	2				隔年開講のため(29)	
	人体の構造と生理	1-2-3-4前 未開講		2		2		1				隔年開講のため(29)	
	高齢者の身体機能と疾病の特徴	1-2-3-4前 未開講		2		3	1		1			隔年開講のため(29)	
	生活習慣病とその予防	1-2-3-4後 未開講		2		2	1	2				兼 2 通常開講(29) 隔年開講及び教員審査で兼任補充と なったため教員を追加(28)	
	運動器疾患と治療・予防	1-2-3-4後 未開講		2		1		0				兼 1 教員審査で兼任補充となったため教 員を追加(28)	
	共生社会論	1前		2			1						
	医療倫理	1前		2								兼 1	
	子どもにとっての福祉とは：社会的養護と家族支援	1-2-3-4前 未開講		2		1							通常開講(29) 隔年開講のため(28)
		1-2-3-4前		2									
	運動学習の科学	1後		2								兼 1	
	エクササイズの理論と実践	1後		2								兼 1	
	スポーツと健康づくりの科学	1前		2								兼 1	
	バラエティスポーツの実践	1後		2								兼 1	
	レクリエーション・スポーツの科学	1前		2								兼 1	
	人生設計から社会人基礎力をつける	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)	
	少子高齢化と地域福祉社会	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)	
	大分県の歴史 I	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)	
	創造的思考法	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)	
	医療社会学	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (28)	
	子どもの人権と福祉	1-2-3-4前		2						1		兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可	
	口腔から考える保健・医 療・福祉	1-2-3-4後		2		1						兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29) 担当 隅田好美(教授) 平成29年1月 教員審査済 判定 可	
	学習意欲の心理学	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
	日本の環境政策	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
	インストラクショナルデザイン入門	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
	大分県の歴史 II	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
	社会福祉学・高齢者介護を中心に	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)	
大分の地域資源	1-2-3-4前後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)		
心理学を知る	1-2-3-4前		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)		
大分の人と学問	1-2-3-4後		2								兼 3 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)		
シネマ、ドキュメント映像で学ぶ 健康と家族・社会の明日	1-2-3-4後		2								兼 1 教育内容の充実のため、科目を追加 (29)		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	海外・語学	英語Ⅰ	1前	1				1				
		英語Ⅱ	1前	1				1				
		英語Ⅲ	1後	1				1				
		英語Ⅳ	1後	1				1				
		基礎中国語Ⅰ	1前			1						兼 1
		基礎中国語Ⅱ	1後			1						兼 1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前			1						兼 2
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後			1						兼 2
		基礎フランス語Ⅰ	1前			1						兼 1
		基礎フランス語Ⅱ	1後			1						兼 1
共通基礎科目	福祉健康科学概論	1前	2			1						
	地域包括ケア概論	2前	2			2						
	地域マネジメント論	3前	2								兼 1	
	ライフサポート論	4前	2			3	1				兼 1	
	アーリー・エクスポージャー	1前	1			7	8	6	5	4	4	兼 1
<p style="text-align: center;">教育課程の充実及び教員負担の軽減のため担当教員の追加及び変更(29) 担当 阿南雅也(講師) (追加) 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂から変更) 平成28年11月 教員審査済 判定 可</p>												
共通展開科目	生体分野	看護学概説	1前	2				1				
		人体の構造と機能及び疾病	1前	2			2			1		
		リハビリテーション医学・概論	1後	2			1					
		地域リハビリテーション学	4後	2			1			4		教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 片岡晶志(教授) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
		生理学Ⅰ	1前		2		1					
		解剖学Ⅰ	1前		2		1			1		教育課程の充実のため、教員を追加 (28) 担当 河上敬介(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
		病理学	1後		2							兼 1
		人間発達学	1後		2		1			1		
		内部障害とリハビリテーション	2前		2		1					
		運動器疾患とリハビリテーション	2前		2		1					
		がんとリハビリテーション	2前		2		4					兼 1
		神経疾患とリハビリテーション	2前		2		1			4		教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 上田徹(教授) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
		言語聴覚療法学	2前		1							兼 1
社会分野	社会保障論Ⅰ	2前 4後	2			4			1		誤表記のため修正(29) 担当教員変更(28) 担当 松本由美(講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可	
	保健医療サービス論	2前	2			1						
	福祉サービスの組織と運営	3後	2								兼 1	
	地域福祉論Ⅰ	2前		2					1			
	現代社会と福祉Ⅰ	1前		2				1				
	高齢者福祉論Ⅰ	1後		2					1			
心理分野	心理学概論	1前	2			1	1					
	社会心理学	3後	2			1						
	コミュニティ心理学	4後	2			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
共通 展開 科目	ライフサイクルの心理学	1後		2			1					
	健康心理学	1後		2				1				
	老年心理学	2前		2				1				
	障害児者心理学	2前		2				1				
	リハビリテーション心理学	1後		2				1				
	臨床心理学概論	2前		2		1						
	精神医学Ⅰ	3前		2							兼 2	
	精神医学Ⅱ	3後		2							兼 1	
チュ ー ト リ ア ル 科 目	チュートリアルⅠ	2後	2				7	6	5	3		教育課程の充実及び教員負担の軽減のため担当教員の追加, 変更(29) 担当 阿南雅也(講師) (追加) 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 岩野卓(講師) (追加) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
	チュートリアルⅡ	3前	1				7	6	5	3		教育課程の充実及び教員負担の軽減のため担当教員の追加, 変更(29) 担当 阿南雅也(講師) (追加) 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 岩野卓(講師) (追加) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
	チュートリアルⅢ	3後	2				7	6	5	3		教育課程の充実及び教員負担の軽減のため担当教員の追加, 変更(29) 担当 阿南雅也(講師) (追加) 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 岩野卓(講師) (追加) 平成29年1月 教員審査済 判定 可
	チュートリアルⅣ	4後	1				7	6	5	3		教育課程の充実及び教員負担の軽減のため担当教員の追加, 変更(29) 担当 阿南雅也(講師) (追加) 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当 岩野卓(講師) (追加) 平成29年1月 教員審査済 判定 可

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
理学療法 コース 専門科目	基礎系 理学療法概論	2前		2			1					教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 浅海靖恵(准教授) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
	義肢装具学	2後		2					1			教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也(講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
医学系	生理学Ⅱ	1後		2		1						
	解剖学Ⅱ	1後		2		1			1			教育課程の充実のため、教員を追加 (28) 担当 河上敬介(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	運動学	2前		2		1			1			教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也(講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
リハビ リテー ション 分野系	理学療法評価学Ⅰ	2後		2		1						
	理学療法評価学Ⅱ	2後		2			1					
	運動療法学	2後		2					1			教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也(講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
	運動器系理学療法学	3前		2						1		
	神経系理学療法学	3前		2				1				
	脳血管障害理学療法学	3前		2				1				
	内部障害理学療法学	3前		2		1						
	発達系理学療法学	3前		2								兼 1
	老年期理学療法学	3前		2		1						
	神経難病理学療法学	3前		2		1			1			教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 朝井政治(教授) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
基礎 研究 科目	慢性疼痛と理学療法学	3後		1		1						
	物理療法学	3前		1		1						
基礎 研究 科目	理学療法学研究論	通 3前		2		5	2	1	1			教育課程の充実を図るため、配当年 次を変更(28)
	理学療法学研究演習	通 4後		2		5	1		3			教育課程の見直しのため、配当年次 を変更(28)
実習系	生理学実習	1後		1		1						
	解剖学実習Ⅰ	前 1後		1		1			1			教育効果向上及び教育課程の充実の ため、教員を追加(28) 担当 河上敬介(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	解剖学実習Ⅱ	1後		1		1			1			教育課程の充実のため、教員を追加 (28) 担当 河上敬介(教授) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	義肢装具学実習	3前 2後		1								教育効果向上のため、配当年次を 変更(28)
	物理療法学実習	3前		1					1	1		教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也(講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
理学療法 コース 専門科目	実習系	基礎理学療法実習	3前	1			1				1	教員負担軽減のため担当教員変更 (29) 担当 河上敬介 (教授) 阿南雅也 (講師) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
		理学療法評価学実習	2後	1			1				1	
		運動器系理学療法学実習	3後	1						1	1	教員審査で専任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也 (講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
		神経系理学療法学実習	3後	1					1	1		兼 1 教員審査で兼任補充となったため 教員を追加(28)
		脳血管障害理学療法学実習	3後	1					1	1		兼 1 教員審査で兼任補充となったため 教員を追加(28)
		内部障害理学療法学実習	3後	1			1				1	
	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ (見学)	1後	1			2	1			3	
		基礎臨床実習Ⅱ (計測)	2後	1			2	1			3	
		臨床実習Ⅰ (アセスメント)	3後	3			2	1			3	
		臨床実習Ⅱ	4前	6			1	1	1		3	教員審査で兼任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也 (講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
		臨床実習Ⅲ	4前	7			1	1	1		3	教員審査で兼任補充となったため、 教員を追加(28) 担当 阿南雅也 (講師) 平成27年11月 教員審査済 判定 可
社会福祉 実践 コース 専門科目	概論系	現代社会と福祉Ⅱ	1後	2			1					
		社会調査の基礎	3前	2			1					
	制度政策系	福祉行財政と福祉計画	2前	2								兼 1
		社会保障論Ⅱ	2後 2前	2			1			1		誤表記のため修正(29) 担当教員変更(28) 担当 松本由美 (講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	社会福祉 分野系	地域福祉論Ⅱ	2後	2						1		
		児童・家庭福祉論	2後	2			1					
		障害児者福祉論	2後	2						1		
		高齢者福祉論Ⅱ	2前	2						1		
		公的扶助論	2前	2				1				
		就労支援サービス	2後	1								兼 1
		権利擁護と成年後見制度論	2前	2								兼 1
		更生保護制度	2後	1								兼 3
	スクールソーシャルワーク	3後	2								兼 1	
	相談援助 技術系	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	1後	2			1					
相談援助の基盤と専門職Ⅱ		2前	2			1						
相談援助の理論と方法Ⅰ		2後	2			1						
相談援助の理論と方法Ⅱ		3前	2			1						
相談援助の理論と方法Ⅲ		3後	2			1						
相談援助の理論と方法Ⅳ		4前	2			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
社会福祉実践 コース専門科目	演習系 相談援助演習Ⅰ	3前		2		1		3	1		教員負担軽減のため担当教員追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	相談援助演習Ⅱ	3前		2		1		3	1		教員負担軽減のため担当教員追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	相談援助演習Ⅲ	3後		2				3	1		教員負担軽減のため担当教員追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	相談援助演習Ⅳ	3後		2				3	1		教員負担軽減のため担当教員追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	相談援助演習Ⅴ	4前		2				3	1		教員負担軽減のため担当教員追加 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
実習系	相談援助実習指導Ⅰ	2前		2				3			
	相談援助実習指導Ⅱ	3前		2				3			
	相談援助実習指導Ⅲ	3後		2				3			
	相談援助実習Ⅰ	2前		2		+		3	1		教員負担軽減のため担当教員変更 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	相談援助実習Ⅱ	3前		4		+		3	1		教員負担軽減のため担当教員変更 (29) 担当 栄留(堀)里美(助教) (衣笠一茂と交代) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
基礎研究科目	卒業研究指導Ⅰ	3前		1			4	3	4	1	教育課程の充実を図るため担当教員 の追加(29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当教員変更(28) 担当 松本由美(講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
	卒業研究指導Ⅱ	3後		1			4	3	4	1	教育課程の充実を図るため担当教員 の追加(29) 担当 栄留(堀)里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可 担当教員変更(28) 担当 松本由美(講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会福祉実践コース専門科目	基礎研究科目											
	卒業研究Ⅰ	4前		1		4		4	1			教育課程の充実を図るため担当教員の追加(29) 担当 栄留里美(助教) 平成28年11月 教員審査済 判定 可
	卒業研究Ⅱ	4後		1		5	3	3				担当教員変更(28) 担当 松本由美(講師) 平成28年1月 教員審査済 判定 可
精神保健福祉系	精神保健学Ⅰ	3前		2							兼 1	
	精神保健学Ⅱ	3 2後		2							兼 1	教育効果向上のため、配当年次を変更(28)
	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2後		2							兼 1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	2前		2							兼 1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	3前		2			1					
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	3後		2							兼 1	
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	4前		2			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	3前		2			1					
	精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	3後		2			1					
	精神障害者の生活支援システム	3後		2							兼 1	
	精神保健福祉援助演習Ⅰ	3後		2			1					
	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4後		2			1					
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	3後		2			1					
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	4前		2			1					
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	4後		2			1					
	精神保健福祉援助実習	4前		5			1					
心理学コース専門科目	心理学基礎系	心理学研究法	2前		2		1					
		心理統計法	1後		2		1					
		心理学基礎実験実習	1後		2			1				
		心理検査実習Ⅰ	3前		2			1				
		心理検査実習Ⅱ	3後		2			1				
		心理面接実習	3後		2		1					
	生理認知心理学系	神経心理学	3前		2			1				
		生理心理学	2前		2			1				
		行動分析学	2後		2						兼 1	
		認知心理学	3前 2後		2						兼 1	教育効果向上のため配当年次を変更(29)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
心理学 コース 専門科目	発達と学習の心理学 I	1後		2							兼 2		
	発達と学習の心理学 II	2前		2							兼 2		
	環境心理学	1前		2							兼 1		
	対人関係論	3前		2					1				
	臨床心理学実践論	2後		2		1							
	医療心理学	3後		2			1						
	人格心理学	2前		2			1						
	教育臨床心理学 I	3前		2		2	1					教育課程の充実を図るため担当教員追加(29) 渡邊 亘(教授) 溝口 剛(准教授) 平成29年4月 教員審査中	
	教育臨床心理学 II	3後		2		2	1					教育課程の充実を図るため担当教員追加(29) 武内 珠美(教授) 平成29年4月 教員審査中	
	幼児理解と発達相談	3前		2							兼 1		
	高齢者臨床心理学	2後		2					1				
	司法・矯正心理学	2後		2							兼 1		
	産業臨床心理学	4前		2					1				
	隣接領域系	児童・家庭福祉論	2後		2		1						
	障害児者福祉論	2後		2					1				
	就労支援サービス	2後		1							兼 1		
	更生保護制度	2後		1							兼 3		
	精神保健学 I	3前		2							兼 1		
	精神保健学 II	3後 2後		2							兼 1	教育効果向上のため、配当年次を変更(29)	
犯罪と法	2前		2							兼 1			
福祉行財政と福祉計画	2前		2							兼 1			
スクールソーシャルワーク	3後		2							兼 1			
実践職能系	臨床実践職能論	3前		2		1							
実践領域実習 I (福祉・医療)	2通		1			3 2	3		2 4			教育課程の充実を図るため担当教員追加(29) 担当 古城和敬(教授) 岩野卓(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可	
実践領域実習 II (教育・司法)	3通		1			3 2	3		2 4			教育課程の充実を図るため担当教員追加(29) 担当 古城和敬(教授) 岩野卓(講師) 平成29年1月 教員審査済 判定 可	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
心理学 コース 専門科目	基礎研究科目											
	心理学特別研究	3後		1		3	3	2				
	卒業課題研究Ⅰ	4前		1		3	3	2				
	卒業課題研究Ⅱ	4後		1		3	3	2				
	卒業研究	4後		4		3	3	2				

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
24	284	6	314	24	357	6	387	
				[]	[73]	[]	[73]	

- (注)
- ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	初等教育のためのICT活用	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
2	手作り絵本の楽しみ	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
3	西洋音楽史入門	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
4	中国史学緒論	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
5	東アジアの諸相	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
6	国際関係入門	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
7	現代国際政治と日本	2	2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
8	現代社会と法	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
9	税金入門	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
10	企業ファイナンス入門	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
11	グローバル経済入門	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
12	経営学の基礎	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
13	経済学で物事をみる	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
14	経済学を学ぶ	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
15	資本市場論	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
16	日本経済入門	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
17	日本の財政	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
18	人間・労働と技術の現代史	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
19	経済発展と貧困削減	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
20	社会調査の基礎	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
21	確率と統計入門	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
22	環境と感染症	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
23	環境と生物	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
24	ゲーム理論と社会	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
25	現代天文学と生命	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
26	栽培学習論	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
27	数学入門	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
28	生命科学と社会	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
29	食品材料概説	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
30	植物細胞工学	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
31	数理の世界	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
32	地域の住まい論	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
33	アルコール関連問題入門	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
34	現代の福祉政策	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
35	市民参加と現代社会	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
36	東南アジアの社会と教育	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
37	保育学基礎論	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
38	学びと生活の探求	2	1・2前	一般	選択	教養教育課程の見直しに伴い、開講年次を変更
39	環境の化学入門	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
40	地域と情報	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
41	現代社会と心理学	2	1・2・3・4後	一般	選択	隔年開講のため
42	人体の構造と生理	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため
43	高齢者の身体機能と疾病の特徴	2	1・2・3・4前	一般	選択	隔年開講のため

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	海外短期語学研修	2	1・2・3・4前後	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置として、語学研修に関する科目を細分化し、多数新設している。
2	企業と労働	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置は無し。
3	生活の化学	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置は無し。
4	抽象化と代数学	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置は無し。
5	クルマと社会の関わり	2	1・2・3・4後	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置は無し。
6	地域と財政	2	1・2・3・4前	一般	選択	教養教育課程見直しに伴う科目廃止。代替措置は無し。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講又は廃止とした科目は、全て教養教育科目（自由選択科目）である。
 未開講科目のうち、隔年開講科目及び教育課程の見直しに伴い開講年次を変更とした科目については、次年度以降の開講により履修が可能である。
 また、教養教育課程の見直しに伴い廃止となった科目もあるが、廃止となった科目の主題内容に関わる新たな科目を追加し、幅広く多数の科目から選択が可能である。
 なお、学生に対しては、学部で行うガイダンスと毎年度発行する「教養教育科目ガイドブック」により、当該年度の開講科目等について周知している。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{49}{314} = \boxed{15.6}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
 ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	151,443 m ²	0 m ²	0 m ²	151,443 m ²			
	運動場用地	91,269 m ²	0 m ²	0 m ²	91,269 m ²			
	小 計	242,712 m ²	0 m ²	0 m ²	242,712 m ²			
	そ の 他	180,272 m ²	0 m ²	0 m ²	180,272 m ²			
合 計	422,984 m ²	0 m ²	0 m ²	422,984 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		114,886 m ²	0 m ²	0 m ²	114,886 m ²			
		(114,886 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(114,886 m ²)			
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	64 室	169 室 173 室	362 室 363 室	20 室 (補助職員 0 人)	3 室 (補助職員 0 人)	学部等改組に伴う改修のため(29)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数					
	福祉健康科学部 福祉健康科学科		34 33 32	室		専任教員増員のため(29) 専任教員増員のため(28)		
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	福祉健康科学部	777,208 [202,695] 768,838 [203,424]	11,484 [4,208] 11,574 [4,262]	4,235 [4,235] 4,141 [4,141]	3,244 3,133	668 640	0	大学全体での共用分を含む
		(777,208 [202,695]) (770,778 [202,183]) (768,838 [203,424])	(11,484 [4,208]) (11,538 [4,242]) (11,574 [4,262])	(4,235 [4,235]) (4,183 [4,183]) (4,141 [4,141])	(3,244) (3,149) (3,133)	(668) (640)	(0)	教育研究環境の充実のため(28) (29)
	計	777,208 [202,695] 768,838 [203,424]	11,484 [4,208] 11,574 [4,262]	4,235 [4,235] 4,141 [4,141]	3,244 3,133	668 640	0	
	(777,208 [202,695]) (770,778 [202,183]) (768,838 [203,424])	(11,484 [4,208]) (11,538 [4,242]) (11,574 [4,262])	(4,235 [4,235]) (4,183 [4,183]) (4,141 [4,141])	(3,244) (3,149) (3,133)	(668) (640)	(0)		
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	7,631 m ² 7,638 m ²	940 948		605,278 603,833 599,000		数値に誤りがあったため(28) 棚増設のため(29)		
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	5,056 m ²	弓道場、テニスコート、プール、陸上競技場 等						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
	教員 1 人当り研究費等	—千円	—千円	図書購入費	—千円	—千円	—千円	
	共 同 研 究 費 等	—千円	—千円	設備購入費	—千円	—千円	—千円	
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		—						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	大分大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開設年度	所在地	
【学部】	年	人	年次人	人		倍			
教育学部									
学校教育教員養成課程	4	135	—	540	学士（教育）	1.06	平成28年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
学校教育課程	4	—	—	—	学士（教育）	—	平成11年度	同上	平成28年度より学生募集停止
情報社会文化課程	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成元年度	同上	同上
人間福祉科学課程	4	—	—	—	学士（教養）	—	平成9年度	同上	同上
経済学部						1.04			
経済学科	4	90		360	学士（経済学）		平成6年度	大分県大分市大字旦野原700番地	学科配属は2年次に行う 平成29年度入学定員減（△40人）
経営システム学科	4	80		320	学士（経済学）		平成6年度	同上	平成29年度入学定員減（△50人）
地域システム学科	4	80		320	学士（経済学）		平成6年度	同上	平成29年度入学定員増（35人）
社会イノベーション学科	4	40		160	学士（経済学）		平成29年度	同上	
各学科共通			3年次 10	20					
医学部									
医学科	6	100	2年次 10	650	学士（医学）	1.00	昭和51年度	大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地	
看護学科	4	60	3年次 6	252	学士（看護学）	1.01	平成6年度	同上	
理工学部									
創生工学科	4	235	3年次 7	954	学士（工学）	1.01	平成29年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
共創理工学科	4	150	3年次 3	606	学士（理工学）	1.05	平成29年度	同上	
工学部									
機械・エネルギーシステム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度	大分県大分市大字旦野原700番地	平成29年度より学生募集停止
電気電子工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度	同上	同上
知能情報システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成3年度	同上	同上
応用化学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成4年度	同上	同上
福祉環境工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成9年度	同上	同上
各学科共通			3年次 —	—					
福祉健康科学部									
福祉健康科学科	4	100	—	400	学士（福祉健康科学）	1.04	平成28年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
【大学院】									
教育学研究科 （修士課程）									
学校教育専攻	2	21	—	42	修士（教育学）	0.92	平成4年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
教科教育専攻 （専門職学位課程）	2	—	—	—	修士（教育学）	—	平成4年度	同上	平成28年度より学生募集停止
教職開発専攻	2	10	—	20	教職修士（専門職）	0.95	平成28年度	同上	

大学の名称	大分大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学員	編入学員	収容員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
経済学研究科 (博士前期課程)									
経済社会政策専攻	2	8	—	16	修士(経済学)	0.74	平成11年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
地域経営政策専攻	2	12	—	24	修士(経営学)	0.45	平成11年度	同上	
(博士後期課程)									
地域経営専攻	3	3	—	9	博士(経済学)	1.11	平成19年度	同上	
医学系研究科 (修士課程)									
医科学専攻	2	15	—	30	修士(医科学)	0.66	平成15年度	大分県由布市挾間町医大ケ丘1丁目1番地	
看護学専攻	2	10	—	20	修士(看護学)	0.70	平成10年度	同上	
(博士課程)									
医学専攻	4	30	—	120	博士(医学)	0.77	平成20年度	同上	
工学研究科 (博士前期課程)									
工学専攻	2	135	—	270	修士(工学)	1.10	平成28年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
機械・エネルギーシステム工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成17年度	同上	平成28年度より学生募集停止
電気電子工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成7年度	同上	同上
知能情報システム工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成7年度	同上	同上
応用化学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成7年度	同上	同上
建設工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成7年度	同上	同上
福祉環境工学専攻	2	—	—	—	修士(工学)	—	平成13年度	同上	同上
(博士後期課程)									
工学専攻	3	8	—	24	博士(工学)	0.87	平成28年度	大分県大分市大字旦野原700番地	
物質生産工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成7年度	同上	平成28年度より学生募集停止
環境工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成7年度	同上	同上
福祉社会科学研究科 (修士課程)									
福祉社会科学専攻	2	12	—	24	修士(福祉社会学)	0.74	平成14年度	大分県大分市大字旦野原700番地	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 ※なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし、「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<福祉健康科学部 福祉健康科学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	阿部 誠	平成28年4月	基礎ゼミ 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	専	講師	松本 由美	平成28年4月	基礎ゼミ 社会保障論Ⅰ 社会保障論Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	担当教員変更(28) 平成28年1月 AC教員審査済(28)
専	教授	相澤 仁	平成28年4月	子どもにとっての福祉とは：社会的養護と家族支援【隔年】 児童・家庭福祉論 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	教授	朝井 政治	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ 生活習慣病とその予防【隔年】※ アーリー・エクスポージャー がんリハビリテーション※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法評価学Ⅰ 内部障害理学療法学 老年期理学療法学 理学療法学研究論※ 理学療法学研究演習※ 基礎理学療法実習 理学療法評価学実習 内部障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	専	教授	朝井 政治	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ 生活習慣病とその予防【隔年】※ アーリー・エクスポージャー がんリハビリテーション※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法評価学Ⅰ 内部障害理学療法学 老年期理学療法学 理学療法学研究論※ 理学療法学研究演習※ 基礎理学療法実習 理学療法評価学実習 内部障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	担当教員変更(29)
									神経難病理理学療法学	平成27年6月補正申請で専任補充となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)
専	教授	大杉 至	平成28年4月	基礎ゼミ 社会理論と社会システム 社会調査の基礎 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	教授	片岡 晶志	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ 運動器疾患と治療・予防【隔年】※ アーリー・エクスポージャー リハビリテーション医学・概論 運動器疾患とリハビリテーション がんリハビリテーション※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 慢性疼痛と理学療法学 理学療法学研究論※ 理学療法学研究演習※	専	教授	片岡 晶志	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ 運動器疾患と治療・予防【隔年】※ アーリー・エクスポージャー リハビリテーション医学・概論 運動器疾患とリハビリテーション がんリハビリテーション※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 慢性疼痛と理学療法学 理学療法学研究論※ 理学療法学研究演習※	
									地域リハビリテーション学	平成27年6月補正申請で専任補充となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	河上 敬介	平成28年4月	基礎ゼミ 人体の構造と生理【隔年】 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 物理療法学 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント)	専	教授	河上 敬介	平成28年4月	基礎ゼミ 人体の構造と生理【隔年】 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 物理療法学 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント)	
									解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ	教育課程の充実を図るため担当教員を追加(28) 平成28年1月 AC教員審査済(28)
									基礎理学療法実習	教員負担軽減のため担当教員を変更(29) 平成28年11月 AC教員審査済(29)
専	教授	衣笠 一茂	平成28年4月	基礎ゼミ 海外研修 社会福祉と自立思想 福祉健康科学概論 地域包括ケア概論 ライフサポート論 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅳ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	専	教授	衣笠 一茂	平成28年4月	基礎ゼミ 海外研修 社会福祉と自立思想 福祉健康科学概論 地域包括ケア概論 ライフサポート論 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 相談援助の基盤と専門職Ⅰ 相談援助の基盤と専門職Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅰ 相談援助の理論と方法Ⅱ 相談援助の理論と方法Ⅲ 相談援助の理論と方法Ⅳ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29) 担当教員変更(29)
専	教授	古城 和敬	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ 心理学概論 社会心理学 コミュニティ心理学 心理学研究法 心理統計法 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究	専	教授	古城 和敬	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ 心理学概論 社会心理学 コミュニティ心理学 心理学研究法 心理統計法 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究	
									実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法)	教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年1月 AC教員審査済(29)
専	教授	兒玉 雅明	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】 ※ 生活習慣病とその予防【隔年】 ※ アーリー・エクスポージャー 人体の構造と機能及び疾病 ※ 内部障害とリハビリテーション がんリハビリテーション ※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	隅田 好美	平成28年4月	基礎ゼミ 地域包括ケア概論 がんとリハビリテーション ※ 保健医療サービス論 相談援助演習 I 相談援助演習 II 卒業研究指導 I 卒業研究指導 II 卒業研究 I 卒業研究 II	専	教授	隅田 好美	平成28年4月	基礎ゼミ 地域包括ケア概論 がんとリハビリテーション ※ 保健医療サービス論 相談援助演習 I 相談援助演習 II 卒業研究指導 I 卒業研究指導 II 卒業研究 I 卒業研究 II	口腔から考える保健・医療・福祉 教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年1月 AC教員審査済(29)
専	教授	武内(山本) 珠美	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー 臨床心理学概論 チュートリアル I チュートリアル II チュートリアル III チュートリアル IV 臨床心理学実践論 教育臨床心理学 I 実践領域実習 I (福祉・医療) 実践領域実習 II (教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究 I 卒業課題研究 II 卒業研究	専	教授	武内(山本) 珠美	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー 臨床心理学概論 チュートリアル I チュートリアル II チュートリアル III チュートリアル IV 臨床心理学実践論 教育臨床心理学 I 実践領域実習 I (福祉・医療) 実践領域実習 II (教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究 I 卒業課題研究 II 卒業研究	教育臨床心理学 II 教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年4月 AC教員審査中(29)
専	教授	徳丸 治	平成28年4月	基礎ゼミ 人体の構造と生理【隔年】 ※ アーリー・エクスプロージャー 人体の構造と機能及び疾病 ※ 生理学 I 人間発達学 ※ チュートリアル I チュートリアル II チュートリアル III チュートリアル IV 生理学 II 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 生理学実習						
専	教授	渡邊 亘	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアル I チュートリアル II チュートリアル III チュートリアル IV 心理面接実習 教育臨床心理学 II 臨床実践職能論 実践領域実習 I (福祉・医療) 実践領域実習 II (教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究 I 卒業課題研究 II 卒業研究	専	教授	渡邊 亘	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアル I チュートリアル II チュートリアル III チュートリアル IV 心理面接実習 教育臨床心理学 II 臨床実践職能論 実践領域実習 I (福祉・医療) 実践領域実習 II (教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究 I 卒業課題研究 II 卒業研究	教育臨床心理学 I 教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年4月 AC教員審査中(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	浅海 靖恵	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法評価学Ⅱ 神経系理学療法学 脳血管障害理学療法学 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 神経系理学療法学実習 脳血管障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	専	准教授	浅海 靖恵	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法評価学Ⅱ 神経系理学療法学 脳血管障害理学療法学 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 神経系理学療法学実習 脳血管障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	平成27年6月補正申請で専任補充となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)
専	准教授	垣田 裕介	平成28年4月	基礎ゼミ 現代の福祉政策【隔年】 現代社会と福祉Ⅰ 現代社会と福祉Ⅱ 公的扶助論 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	准教授	河野 伸子	平成28年4月	基礎ゼミ 現代における青年の心理【隔年】 アーリー・エクスプロージャー 心理学概論 ライフサイクルの心理学 チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究						
専	准教授	橋本 美枝子	平成28年4月	基礎ゼミ アルコール関連問題入門【隔年】 アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ 精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ 精神保健福祉援助演習Ⅰ 精神保健福祉援助演習Ⅱ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ 精神保健福祉援助実習指導Ⅲ 精神保健福祉援助実習						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	准教授	溝口 剛	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 心理検査実習Ⅰ 医療心理学 人格心理学 教育臨床心理学Ⅱ 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究	専	准教授	溝口 剛	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】 ※ ライフサポート論 ※ アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 心理検査実習Ⅰ 医療心理学 人格心理学 教育臨床心理学Ⅰ 教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年4月 AC教員審査中(29) 教育臨床心理学Ⅱ 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究	
専	准教授	宮崎 伊久子	平成28年4月	基礎ゼミ 生活習慣病とその予防【隔年】 ※ アーリー・エクスプロージャー 看護学概説 チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法学研究論 ※						
専	准教授	村上 裕樹	平成28年4月	アーリー・エクスプロージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 心理学基礎実験実習 心理検査実習Ⅱ 神経心理学 生理心理学 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究						
専	准教授	八木 直樹	平成28年4月	基礎ゼミ 前近代日本の国家と社会【隔年】 共生社会論 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	准教授	Langley, Raymond Garold	平成28年4月	海外研修 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ						
専	講師	池永 恵美	平成28年4月	基礎ゼミ 現代社会と心理学【隔年】 ※ アーリー・エクスプロージャー 障害児者心理学 リハビリテーション心理学 チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 対人関係論 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	岩野 卓	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】※ 健康心理学 老年心理学 高齢者臨床心理学 産業臨床心理学 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究	専	講師	岩野 卓	平成28年4月	現代社会と心理学【隔年】※ 健康心理学 老年心理学 高齢者臨床心理学 産業臨床心理学 心理学特別研究 卒業課題研究Ⅰ 卒業課題研究Ⅱ 卒業研究 実践領域実習Ⅰ(福祉・医療) チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ 実践領域実習Ⅱ(教育・司法) チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ	教育課程の充実を図るため担当教員を追加(29) 平成29年1月 AC教員審査済(29)
専	講師	川村 岳人	平成28年4月	基礎ゼミ アーリー・エクスポージャー 地域福祉論Ⅰ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 地域福祉論Ⅱ 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	講師	工藤 修一	平成28年4月	基礎ゼミ 福祉専門職のまじ方【隔年】 アーリー・エクスポージャー 高齢者福祉論Ⅰ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 高齢者福祉論Ⅱ 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	講師	紀 瑞成	平成28年4月	基礎ゼミ 人体の構造と生理【隔年】※ 人体の構造と機能及び疾病※ 解剖学Ⅰ 人間発達学※ チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 解剖学Ⅱ 理学療法学研究論※ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	講師	廣野 俊輔	平成28年4月	基礎ゼミ 障がい者福祉入門【隔年】 アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 障害児者福祉論 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習指導Ⅲ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ						
専	助教	川上 健二	平成28年4月	基礎ゼミ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 運動器系理学療法学 理学療法学研究演習 ※ 物理療法実習 理学療法評価学実習 運動器系理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ						
専	助教	菅田 陽怜	平成28年4月	基礎ゼミ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法学研究論 ※ 理学療法学研究演習 ※ 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ						
専	助教	田中 健一郎	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法学研究演習 ※ 基礎理学療法実習 内部障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	専	助教	田中 健一郎	平成28年4月	基礎ゼミ 高齢者の身体機能と疾病の特徴【隔年】 ※ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 理学療法学研究演習 ※ 基礎理学療法実習 内部障害理学療法学実習 基礎臨床実習Ⅰ(見学) 基礎臨床実習Ⅱ(計測) 臨床実習Ⅰ(アセスメント) 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	担当教員変更(29)
					専	教授	上田 徹	平成28年9月	神経疾患とリハビリテーション	平成27年6月補正申請で専任補充となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
									義肢装具学 運動学 運動療法学 物理療法学実習 運動器系理学療法学実習	平成27年6月補正申請で専任補充となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)
					専	講師	阿南 雅也	平成28年4月	臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、専任補充(28) 平成27年11月 AC教員審査済(28)
									基礎ゼミ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 基礎理学療法実習	教育課程の充実のため専任補充(29) 平成28年11月 AC教員審査済(29)
									子どもの人権と福祉 基礎ゼミ アーリー・エクスポージャー チュートリアルⅠ チュートリアルⅡ チュートリアルⅢ チュートリアルⅣ 相談援助演習Ⅰ 相談援助演習Ⅱ 相談援助演習Ⅲ 相談援助演習Ⅳ 相談援助演習Ⅴ 相談援助実習Ⅰ 相談援助実習Ⅱ 卒業研究指導Ⅰ 卒業研究指導Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	教育課程の充実及び教員負担の軽減のため専任補充(29) 平成28年11月 AC教員審査済(29)
兼任	教授	麻生 和江	平成28年4月	エクササイズの理論と実践						
兼任	教授	池内 宣夫	平成28年4月	応用ドイツ語Ⅰ 応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	兼任	教授	池内 宣夫	平成28年4月	応用ドイツ語Ⅰ 応用ドイツ語Ⅱ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	担当教員見直しのため(29)
兼任	教授	石井 まこと	平成28年4月	地域における仕事と社会【隔年】						
兼任	教授	石川 雄一	平成28年4月	環境の化学入門 ※	兼任	教授	石川 雄一	平成28年4月	環境の化学入門 ※ 環境の化学	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	井田 知也	平成28年4月	地域と財政【隔年】	兼任	教授	井田 知也	平成28年4月	地域と財政【隔年】	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29)
兼任	教授	市原 宏一	平成28年4月	大分の水Ⅰ 大分の水Ⅱ	兼任	教授	市原 宏一	平成28年4月	大分の水Ⅰ 大分の水Ⅱ プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～ プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～	教育内容充実のため科目を追加(29) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	市原 靖士	平成28年4月	木材加工の技術 初等教育のためのICT活用 栽培学習論 初等教育のためのものづくり 自然災害と防災の科学 ※	兼任	教授	市原 靖士	平成28年4月	木材加工の技術 初等教育のためのICT活用 栽培学習論 初等教育のためのものづくり 自然災害と防災の科学 ※ ものづくり入門	教育内容の充実のため(28)
兼任	教授	井手 知恵子	平成28年4月	ライフサポート論 ※						
兼任	教授	井上 正文	平成28年4月	建築構造工学 ※	兼任	教授	井上 正文	平成28年4月	建築構造工学 ※	担当教員の退職のため(28)
兼任	教授	鶴崎 清貴	平成28年4月	企業ファイナンス入門【隔年】						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	氏家 誠司	平成28年4月	くらしの化学 ※						
兼任	教授	江島 伸興	平成28年4月	環境と感染症	兼任	教授	江島 伸興	平成28年4月	環境と感染症	教育改革に伴う科目整理のため(28)
兼任	教授	大賀 恭	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化 環境の化学入門 ※	兼任	教授	大賀 恭	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化 環境の化学入門 ※ 環境の化学	担当教員の見直しのため(28) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	大鶴 徹	平成28年4月	建築環境計画 ※	兼任	教授	大鶴 徹	平成28年4月	建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	小笠原 悟	平成28年4月	金融とわたしたちの生活【隔年】						
兼任	教授	越智 義道	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※	兼任	教授	高見 利也	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※ 情報システム概論	担当教員辞任のため教員を追加(28) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	甲斐 徳久	平成28年4月	化学史 くらしの化学 ※						
兼任	教授	菊池 健児	平成28年4月	建築構造工学 ※	兼任	教授	菊池 健児	平成28年4月	建築構造工学 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	金 珍奎	平成28年4月	資本市場論【隔年】						
兼任	教授	黒川 勲	平成28年4月	西洋思想の源流【隔年】						
兼任	教授	家本 宣幸	平成28年4月	幾何学【隔年】						
兼任	教授	高山 英男	平成28年4月	国際関係入門【隔年】						
兼任	教授	古賀 正文	平成28年4月	エレクトロニクスの世界 I ※						
兼任	教授	佐々木 博康	平成28年4月	基礎ドイツ語 I 基礎ドイツ語 II	兼任	教授	佐々木 博康	平成28年4月	基礎ドイツ語 I 基礎ドイツ語 II 応用ドイツ語 I	担当教員見直しのため(29)
兼任	教授	佐藤 嘉昭	平成28年4月	建築構造工学 ※						
兼任	教授	下田 憲雄	平成28年4月	ゲーム理論と社会【隔年】						
兼任	教授	白木 康晴	平成28年4月	税金入門【隔年】						
兼任	教授	末谷 大道	平成28年4月	物理学への招待【隔年】 ※						
兼任	教授	鈴木 義弘	平成28年4月	建築環境計画 ※	兼任	教授	鈴木 義弘	平成28年4月	建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	住田 実	平成28年4月	スポーツと健康づくりの科学	兼任	教授	住田 実	平成28年4月	スポーツと健康づくりの科学 シネマ、ドキュメント映像で学ぶ健康と家族・社会の明日	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	高浜 秀樹	平成28年4月	生命科学と社会【隔年】						
兼任	教授	高見 博之	平成28年4月	経済学を学ぶ【隔年】						
兼任	教授	田中 星治	平成28年4月	器楽の楽しみ						
兼任	教授	田中 康彦	平成28年4月	数理の世界【隔年】						
兼任	教授	谷口 勇一	平成28年4月	レクリエーション ナル・スポーツの科学						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	田畑 千秋	平成28年4月	古典文学講読						
兼任	教授	玉江 和義	平成28年4月	バラエティスポーツの実践						
兼任	教授	Day Stephen Robert	平成28年4月	地域ガバナンスとグローバルガバナンスを考える【隔年】						
兼任	教授	寺町 芳子	平成28年4月	がんとリハビリテーション ※						
兼任	教授	土居 晴洋	平成28年4月	自然災害と防災の科学 ※						
兼任	教授	中島 俊男	平成28年4月	生活の化学【隔年】	兼任	教授	中島 俊男	平成28年4月	生活の化学【隔年】	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29)
兼任	教授	中島 誠	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※						
兼任	教授	仲野 誠	平成28年4月	現代天文学と生命						
兼任	教授	長屋 智之	平成28年4月	物理学への招待【隔年】 ※						
兼任	教授	鍋島 隆	平成28年4月	エレクトロニクスの世界Ⅱ ※						
兼任	教授	西村 善博	平成28年4月	経済統計を読む【隔年】						
兼任	教授	馬場 清	平成28年4月	抽象化と代数学【隔年】	兼任	教授	馬場 清	平成28年4月	抽象化と代数学【隔年】	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29)
兼任	教授	濱本 誠	平成28年4月	エネルギー科学 ※						
兼任	教授	平田 利文	平成28年4月	東南アジアの社会と教育【隔年】						
兼任	教授	藤井 弘也	平成28年4月	身近な物理学【隔年】 地域と情報【隔年】						
兼任	教授	藤原 耕作	平成28年4月	国文学作品研究【隔年】						
兼任	教授	藤原 直樹	平成28年4月	人間・労働と技術の現代史【隔年】						
兼任	教授	古家 賢一	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※						
兼任	教授	前田 寛	平成28年4月	スポーツと生活【隔年】 大分の水!						
兼任	教授	牧野 治敏	平成28年4月	人類の知的遺産と向き合う 生命観の変遷 カラダの見方・考え方 自然体験活動の理論と実践	兼任	教授	牧野 治敏	平成28年4月	人類の知的遺産と向き合う 生命観の変遷 カラダの見方・考え方 自然体験活動の理論と実践 大分の人と学問	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	益子 洋治	平成28年4月	エレクトロニクスの世界Ⅰ ※						
兼任	教授	松隈 久昭	平成28年4月	消費者と企業【隔年】						
兼任	教授	松田 聡	平成28年4月	西洋音楽史入門【隔年】	兼任	教授	松田 聡	平成28年4月	西洋音楽史入門【隔年】 バロック音楽の世界	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	松本 正	平成28年4月	器楽の楽しみ						
兼任	教授	真鍋 正規	平成28年4月	建築環境計画 ※	兼任	教授	真鍋 正規	平成28年4月	建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	教授	宮下 清	平成28年4月	日本のマネジメント【隔年】						
兼任	教授	望月 聡	平成28年4月	食品材料概説【隔年】	兼任	教授	望月 聡	平成28年4月	食品材料概説【隔年】 分大キャンパスライフ入門 職業とキャリア開発 大分の人と学問	教育内容充実のため科目を追加(29) 教育内容充実のため科目を追加(29) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	教授	守山 正胤	平成28年4月	病理学						
兼任	教授	山田 英巳	平成28年4月	地球環境とエネルギー入門 ※						
兼任	准教授	相浦 洋志	平成28年4月	経済学で物事をみる【隔年】	兼任	准教授	相浦 洋志	平成28年4月	経済学で物事をみる【隔年】	他機関へ異動後、非常勤として担当のため(29)
兼任	准教授	青野 篤	平成28年4月	日本国憲法						
兼任	准教授	青柳 かおり	平成28年4月	イギリス近代史【隔年】						
兼任	准教授	麻生 良太	平成28年4月	発達と学習の心理学Ⅰ 発達と学習の心理学Ⅱ						
兼任	准教授	甘利 弘樹	平成28年4月	医学史のフロムナード【隔年】 中国史学緒論【隔年】 東アジアの諸相【隔年】						
兼任	准教授	池内 秀隆	平成28年4月	福祉テクノロジー入門						
兼任	准教授	泉 好弘	平成28年4月	植物細胞工学【隔年】						
兼任	准教授	岩本 光生	平成28年4月	地球環境とエネルギー入門 ※						
兼任	准教授	宇野 真人	平成28年4月	企業の価格戦略と消費者の行動【隔年】						
兼任	准教授	大井 尚司	平成28年4月	交通から見た地域社会【隔年】						
兼任	准教授	大上 和敏	平成28年4月	大分の水I						
兼任	准教授	大隈 ひとみ	平成28年4月	数学入門【隔年】						
兼任	准教授	大竹 哲史	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※	兼任	准教授	大竹 哲史	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※ 情報システム概論	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	准教授	大谷 俊浩	平成28年4月	建築構造工学 ※	兼任	准教授	大谷 俊浩	平成28年4月	建築構造工学 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	准教授	大野 貴雄	平成28年4月	微分法と数学【隔年】						
兼任	准教授	大呂 興平	平成28年4月	食と農の地理学【隔年】						
兼任	准教授	岡内 優明	平成28年4月	スポーツと生活【隔年】						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	岡田 正彦	平成28年4月	生涯学習入門 大学開放論-社会人の学びと大学生の学び- 学習ボランティア入門 中小企業の魅力の発見と発信～インターンシップセミナー～ 大分の水I	兼任	教授	岡田 正彦	平成28年4月	生涯学習入門 大学開放論-社会人の学びと大学生の学び- 学習ボランティア入門 中小企業の魅力の発見と発信～インターンシップセミナー～ 大分の水I プロジェクト型学習入門1～インターンシップセミナーB～ プロジェクト型学習入門2～インターンシップセミナーB～	職位の変更(29) 教育内容充実のため科目を追加(29) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	准教授	小野 宏	平成28年4月	日本の財政【隔年】						
兼任	准教授	木村 雄一	平成28年4月	経済発展と貧困削減【隔年】						
兼任	准教授	久木元 美琴	平成28年4月	子育て支援の地理学【隔年】						
兼任	准教授	工藤 孝人	平成28年4月	エレクトロニクスの世界I ※						
兼任	准教授	久保田 亮	平成28年4月	文化人類学【隔年】						
兼任	准教授	雲 和子	平成28年4月	英語ゼミナールA						
兼任	准教授	厨川 明	平成28年4月	エレクトロニクスの世界II ※						
兼任	准教授	高坂 拓司	平成28年4月	エネルギー科学 ※						
兼任	准教授	後藤 雄治	平成28年4月	エネルギー科学 ※						
兼任	准教授	小林 祐司	平成28年4月	自然災害と防災の科学 ※ 建築環境計画 ※	兼任	准教授	小林 祐司	平成28年4月	自然災害と防災の科学 ※ 建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	准教授	佐々木 朱美	平成28年4月	英語ゼミナールD						
兼任	准教授	佐藤 晋治	平成28年4月	行動分析学						
兼任	准教授	佐藤 隆	平成28年4月	経済と倫理【隔年】	兼任	講師	佐藤 隆	平成28年4月	経済と倫理【隔年】	他機関へ異動後、非常勤講師として担当のため(29)
兼任	准教授	佐藤 輝被	平成28年4月	エレクトロニクスの世界II ※						
兼任	准教授	柴田 茂紀	平成28年4月	グローバル経済入門【隔年】						
兼任	准教授	芝原 雅彦	平成28年4月	身近な化学【隔年】 大分の水I 大分の水II						
兼任	准教授	島田 和典	平成28年4月	初等教育のためのICT活用 クルマと社会の関わり 初等教育のためのものづくり	兼任	准教授	島田 和典	平成28年4月	初等教育のためのICT活用 クルマと社会の関わり 初等教育のためのものづくり ものづくり入門	担当教員の見直しのため(29) 教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29) 担当教員の見直しのため(29) 担当教員の見直しのため(29) 教育内容の充実のため(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	下條 美恵子	平成28年4月	海外短期語学研修 日本語学Ⅰ	兼任	准教授	下條 美恵子	平成28年4月	海外短期語学研修 トピタテ留学準備英語 ミニトピタテ海外研修 海外短期語学研修(台湾・東海大学Ⅰ) 海外短期語学研修(台湾・東海大学Ⅱ) 海外短期語学研修(中国・江漢大学) 海外短期語学研修(ドイツ・ライプツィヒ大学) 日本語学Ⅰ	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	准教授	鄭 敬娥	平成28年4月	現代国際政治と日本【隔年】						
兼任	准教授	高島 拓哉	平成28年4月	地域社会へのまなざし【隔年】						
兼任	准教授	田中 修二	平成28年4月	大分美術史概論【隔年】						
兼任	准教授	田中 洋	平成28年4月	幼児理解と発達相談						
兼任	准教授	堤 隆	平成28年4月	精神医学Ⅱ 精神保健学Ⅰ 精神保健学Ⅱ						
兼任	准教授	富来 礼次	平成28年4月	建築環境計画※	兼任	准教授	富来 礼次	平成28年4月	建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	准教授	豊島 慎一郎	平成28年4月	市民参加と現代社会【隔年】						
兼任	准教授	中川 裕之	平成28年4月	数学と文化【隔年】						
兼任	准教授	永野 昌博	平成28年4月	環境と生物【隔年】						
兼任	准教授	仲本 大輔	平成28年4月	経営学の基礎【隔年】						
兼任	准教授	南里 敬三	平成28年4月	ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅰ ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ	兼任	准教授	南里 敬三	平成28年4月	ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅰ ソーシャルネットワークと大分からの発信Ⅱ 狂言で大分を学ぶ 海外短期語学研修(フィリピン・アテネオマニラ大学)	教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	准教授	原田 拓典	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化	兼任	准教授	原田 拓典	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化	担当教員の見直しのため(28)
兼任	准教授	廣瀬 剛	平成28年4月	手作り絵本の楽しみ【隔年】						
兼任	准教授	藤田 敦	平成28年4月	認知心理学発達と学習の心理学Ⅰ 発達と学習の心理学Ⅱ	兼任	教授	藤田 敦	平成28年4月	認知心理学発達と学習の心理学Ⅰ 発達と学習の心理学Ⅱ 心理学を知る	職位変更(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	准教授	包 聯群	平成28年4月	応用中国語Ⅰ 応用中国語Ⅱ 基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ	兼任	准教授	包 聯群	平成28年4月	応用中国語Ⅰ 応用中国語Ⅱ 基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ 国際健康コンシェルジュ養成講座	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼任	准教授	牧 真理子	平成28年4月	会社法入門【隔年】						
兼任	准教授	松岡 輝美	平成28年4月	革新的企業経営【隔年】						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	准教授	松岡 菜穂子	平成28年4月	地域の住まい論【隔年】 自然災害と防災の科学 ※						
兼任	准教授	御手洗 靖	平成28年4月	英語ゼミナールE : 英語運用力養成訓練Ⅰ 英語ゼミナールF : 英語運用力養成訓練Ⅱ						
兼任	准教授	村山 悠	平成28年4月	日本経済入門【隔年】						
兼任	准教授	本谷 るり	平成28年4月	会社組織のしくみ【隔年】 大分の水Ⅰ						
兼任	准教授	安田 俊介	平成28年4月	応用フランス語Ⅰ 応用フランス語Ⅱ 基礎フランス語Ⅰ 基礎フランス語Ⅱ						
兼任	准教授	山浦 陽一	平成28年4月	世界・日本・大分の農業経済論【隔年】						
兼任	講師	秋山 智恵子	平成28年4月	現代社会と法【隔年】						
兼任	講師	池田 八果穂	平成28年4月	進化と多様性の生物学						
兼任	講師	石井 啓義	平成28年4月	精神医学Ⅰ						
兼任	講師	大野 歩	平成28年4月	保育学基礎論【隔年】						
兼任	講師	金森 由美	平成28年4月	表現技術(口頭発表)	兼任	講師	金森 由美	平成28年4月	表現技術(口頭発表) 大分事情 日本語文法分析 狂言で大分を学ぶ 海外短期語学研修(韓国・ソウル女子大学校Ⅰ) 海外短期語学研修(韓国・ソウル女子大学校Ⅱ) 海外短期語学研修(韓国・培材大学校) 海外短期語学研修(韓国・釜山大学校)	科目名変更(29) 教育内容の充実のため(28) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29) 教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	講師	行天 啓二	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※	兼任	講師	行天 啓二	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※ 情報システム概論	教育内容の充実のため、科目を追加(29)
兼任	講師	小山 拓志	平成28年4月	地生態学【隔年】 自然災害と防災の科学 ※						
兼任	講師	近藤 隆司	平成28年4月	物理学への招待【隔年】 ※						
兼任	講師	武原 美穂	平成28年4月	言語と社会						
兼任	講師	田端 真弓	平成28年4月	運動学習の科学						
兼任	講師	永田 誠	平成28年4月	学びと生活の探求【隔年】						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼担	講師	中原 久志	平成28年4月	木材加工の技術 初等教育のためのICT活用 栽培学習論 初等教育のためのものづくり	兼担	講師	中原 久志	平成28年4月	木材加工の技術 初等教育のためのICT活用 栽培学習論 初等教育のためのものづくり ものづくり入門	教育内容の充実のため(28)
兼担	講師	原 恭彦	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※						
兼担	講師	HARRAN THOMAS JAMES	平成28年4月	英語ゼミナールB						
兼担	講師	藤井 康子	平成28年4月	水彩画の魅力【隔年】						
兼担	助教	大山 哲司	平成28年4月	確率と統計入門						
兼担	助教	賀川 経夫	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※						
兼担	助教	佐藤 慶三	平成28年4月	コンピュータ科学入門 ※ 情報科学の世界 ※						
兼担	助教	田中 圭	平成28年4月	建築構造工学 ※	兼担	准教授	田中 圭	平成28年4月	建築構造工学 ※ 建築入門	職位変更(29) 教育内容充実のため科目を追加(29)
兼担	助教	田中 悦弘	平成28年4月	精神医学 I						
兼担	助教	姫野 由香	平成28年4月	建築環境計画 ※	兼担	助教	姫野 由香	平成28年4月	建築環境計画 ※ 建築入門	教育内容充実のため科目を追加(29)
兼担	助教	平尾 翔太郎	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化	兼担	助教	平尾 翔太郎	平成28年4月	原子と分子物質の状態と変化	担当教員の見直しのため(28)
兼任	講師	小桐 修	平成28年4月	スクールソーシャルワーク						
兼任	講師	神田 志穂	平成28年4月	言語聴覚療法学						
兼任	講師	塩崎 政士	平成28年4月	福祉サービスの組織と運営						
兼任	講師	中村 廣光	平成28年4月	就労支援サービス						
兼任	講師	橋本 聖美	平成28年4月	権利擁護と成年後見制度論						
兼任	講師	甲斐 祐治	平成28年4月	更生保護制度						
兼任	講師	濱水 文花	平成28年4月	更生保護制度						
兼任	講師	河野 美里	平成28年4月	更生保護制度						
兼任	講師	高橋 勉	平成28年4月	福祉行財政と福祉計画						
兼任	講師	橋本 みきえ	平成28年4月	精神保健福祉相談援助の基盤(専門) 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I						
兼任	講師	倉知 延章	平成28年4月	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 III 精神障害者の生活支援システム						
兼任	講師	園田 美保	平成28年4月	環境心理学						

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	高橋 泰夫	平成28年4月	司法・矯正心理学						
兼任	講師	遠矢 陽子	平成28年4月	犯罪と法						
兼任	講師	野口 定久	平成28年4月	地域マネジメント論						
兼任	講師	幸 幹夫	平成28年4月	義肢装具学実習						
兼任	講師	平野 互	平成28年4月	医療倫理						
兼任	講師	武田 真樹	平成28年4月	発達系理学療法学						
					兼任	助教	池田 真一	平成28年4月	生活習慣病とその予防 アーリー・エクスプロージャー	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、兼任補充(28)
					兼任	講師	鈴木 雄清	平成28年4月	創造的思考法 学習意欲の心理学 インストラクショナルデザイン入門 大分の地域資源 大分の人と学問	教育内容の充実のため(28) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	助教	千葉 政一	平成28年4月	生活習慣病とその予防	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、兼任補充(28)
					兼任	講師	長谷川 祐介	平成28年4月	社会調査の基礎	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	幸 光善	平成28年4月	企業と労働	教養教育課程見直しに伴う科目廃止(29) 教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	岩崎 瑞枝	平成28年4月	医療社会学	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	荻野 哉	平成28年4月	美の世界	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	奥田 憲昭	平成28年4月	少子高齢化と地域福祉社会	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	亀井 隆弘	平成28年4月	神経系理学療法学実習 脳血管障害理学療法学実習	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、兼任補充(28)
					兼任	講師	高瀬 圭子	平成28年4月	図像学の世界	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	坪内 優太	平成30年4月	神経系理学療法学実習 脳血管障害理学療法学実習	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、兼任補充(28)
					兼任	講師	戸澤 興治	平成28年4月	運動器疾患と治療・予防	平成27年6月補正申請で兼任補充可となった科目について、兼任補充(28)
					兼任	講師	藤本 雅巳	平成28年4月	人生設計から社会人基礎力をつける	教育内容の充実のため(28)
					兼任	講師	吉崎 弘一	平成28年4月	情報処理入門	教育内容の充実のため(28)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	吉永 浩二	平成28年4月	大分県の歴史Ⅰ 大分県の歴史Ⅱ	教育内容の充実のため(28) 教育内容の充実のため(29)
					兼任	教授	穴井 孝信	平成29年4月	国際健康コンシェルジュ養成講座	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	川崎 道広	平成29年4月	数学の世界	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	工藤 欣邦	平成29年4月	国際健康コンシェルジュ養成講座	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	財津 庸子	平成29年4月	南アジアの生活文化を知ろう	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	谷野 勝敏	平成29年4月	教養としてのコンピュータ	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	富畑 賢司	平成29年4月	知的財産入門	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	西野 浩明	平成29年4月	情報システム概論	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	福田 亮治	平成29年4月	ファジィの数理 応用解析Ⅱ	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	堀 泰樹	平成29年4月	文章構成法	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	教授	松浦 恵子	平成29年4月	男女共同参画入門	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	大下 晴美	平成29年4月	男女共同参画入門 国際健康コンシェルジュ養成講座	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	小野 慎一郎	平成29年4月	簿記の基礎	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	金子 創	平成29年4月	社会科学方法論入門	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	清水 慶彦	平成29年4月	「現代音楽」とはなにか	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	中村 美保	平成29年4月	会計と社会	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	西垣 肇	平成29年4月	海流とその研究	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	准教授	包 聯群	平成29年4月	国際健康コンシェルジュ養成講座	教育内容充実のため科目追加(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	三好 登	平成29年4月	大学と社会	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	安部 眞佐子	平成29年4月	生化学	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	雨宮 洋子	平成29年4月	社会福祉学・高齢者介護を中心に	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	岩崎 香子	平成29年4月	生化学	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	宇都宮 妙	平成29年4月	日常生活の法律	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	大久保 利一	平成29年4月	電気の世界Ⅱ	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	岡 茂八郎	平成29年4月	電気の世界Ⅰ	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	木下 和久	平成29年4月	機械の世界 機械と文明	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	佐々木 美江	平成29年4月	ビジネスジャパニーズ演習3 ビジネスジャパニーズ演習4	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	佐藤 裕哲	平成29年4月	コミュニケーション入門Ⅰ コミュニケーション入門Ⅱ	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	城井 堅	平成29年4月	日本の環境政策	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	久田 成昭	平成29年4月	道路施策概論	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	ブルカートクリストファー	平成29年4月	アカデミック・イングリッシュⅠ(リーディング&ライティング) アカデミック・イングリッシュⅡ(スピーキング) 留学英語Ⅰ(リスニング) 留学英語Ⅱ(リーディング) 国際理解教育:サステナビリティ 海外短期語学研修(英国・セントラルランカシャー大学Ⅰ) 海外短期語学研修(英国・セントラルランカシャー大学Ⅱ)	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	松本 康史	平成29年4月	プロダクトデザイン	教育内容充実のため科目追加(29)

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
					兼任	講師	宗像 健一	平成29年4月	美術文化論	教育内容充実のため科目追加(29)
					兼任	講師	劉 美貞	平成29年4月	ハンゲルとその文化Ⅰ ハンゲルとその文化Ⅱ	教育内容充実のため科目追加(29) 教育内容充実のため科目追加(29)

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
・ **意見伺いで設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
14 名	7 名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2)-② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
13	9	6	3	31	13	9	8	4	34	13	9	8	4	34
(12)	(9)	(8)	(3)	(32)						[]	[]	[+2]	[+1]	[+3]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	阿部 誠	必修	基礎ゼミ	①	担当教員変更のため (28)	
			必修	社会保障論Ⅰ	①		
			選択	社会保障論Ⅱ	①		
			選択	卒業研究指導Ⅰ	①		
			選択	卒業研究指導Ⅱ	①		
			選択	卒業研究Ⅰ	①		
			選択	卒業研究Ⅱ	①		
合計 (A)				後任補充状況の集計 (B)			
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	7 科目	計	7 科目	計	0 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
		該当なし					
合計 (C)				後任補充状況の集計 (D)			
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)				後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
1	人	必修	2 科目	必修	2 科目	必修	0 科目
		選択	5 科目	選択	5 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	7 科目	計	7 科目	計	0 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の辞退に伴う専任教員補充及び担当科目の追加等は、平成28年4月の学部開設までに行っており影響は無い。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年5月)	リハビリテーションコースの名称について、幅広い素養を持つリハビリテーション専門職の養成には、言語聴覚や作業療法といった分野に関する十分な知識を修得することが必要であることから、コース名称を「理学療法コース」に改めること。	留意事項	コース名称を「理学療法コース」と改めた。(28)	
設 置 時 (平成28年5月)	「海外研修」について、本科目の中で事前学習として研修国の語学・文化等を学ぶとあるが、具体的に本科目のどの単元で行われるかをシラバス上で明確にするとともに、本研修への教員の参画状況についても明確にすること。また、以下の点について適切に改めること。 ・本科目の履修に当たっては、「英語Ⅰ～Ⅳ」の評定がA以上である一方、語学力の一定の担保に必要な指標として、TOEIC400点以上とされており、語学力を図る指標に整合が取れていないと見受けられるため、適切に改めること。また、「英語Ⅰ～Ⅳ」は1年次に履修することを踏まえると、本科目は2年次以上に履修すると思われるが、配当年次の整合が取れていないと見受けられるため、適切に改めること。	留意事項	事前学習については、ガイダンスを含め合計6回にわたり、現地の福祉システムや必要となる語学についての学習を行う。(資料1-1 海外研修シラバス) 教員については、外国籍を持つ教員1名と、これまで長年にわたり現地を訪問し、現地との交流も深い教員が対応することとなっている。 語学力担保の基準については、本学の定める外国語の検定試験等の単位認定についての規定(資料1-2)を参考とし、TOEFL520点以上とあらためる。 配当年次については、英語Ⅰ～Ⅳの履修時期をふまえ、2～4年後期へ変更する。(28)	
設 置 時 (平成28年5月)	ライフサポート論については、「バイオ・サイコ・ソーシャル」に渡る生活の包括的な支援のあり方について、医療・心理・社会といった各領域における方法論を学ぶとあるが、今回示された「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」は、個人の生活を捉える上での3つの視点の重要性を意味するものであり、本来、各領域における実践や方法論を意味するものではなく、本概念の理解について相違があることから、整合を図ること。また、本科目において、「バイオ・サイコ・ソーシャル」が各領域でどのように展開されるか、また、これらをどう統合するのかが、不明瞭であることから、シラバス等で明らかにすること。	留意事項	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの概念枠組み、3つの領域における具体的な実践の方法と専門性、専門職の連携と協働のあり方について学ぶ講義であることが明確にわかるよう、シラバスにおいて示した。(資料2 ライフサポート論シラバス)(28)	

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年5月)	<p>本学部が独自に定める臨床実習指導者の採用要件について、</p> <p>①学士以上の学位を有する者 ②日本理学療法士協会の「専門理学療法士」、または「認定理学療法士」の資格を有する者 ③理学療法士として十分な臨床経験を有し、その分野における能力に秀でていと認められる者または各種学会にて認定される資格を有している者 ④理学療法士として臨床経験を10年以上有する者 ⑤当大学が上記4項目に準じる能力を有すると認められた者</p> <p>のいずれかを満たす者としているが、大学教育の質を十分に担保する観点から、①を満たした上で、②から④のいずれかに該当することを要件とする旨に改めること。また、⑤に該当する者の判断に当たっては、本指導者として認められるかを適切に判断できるための具体的な内規を整備するよう改めること。</p> <p style="text-align: center;">留意事項</p>	<p>大学教育の質を十分に担保する観点から、学士の学位を有することを必須要件とし、②から④のいずれかに該当することを要件とする旨に改めた。また、⑤に該当する者の判断に当たっては、具体的な要件を定めた。これらをすべて内規として整備した。(資料3 臨床実習科目における実習指導者採用に関する申し合せ)(28)</p>	
設 置 時 (平成28年5月)	<p>理学療法学の要素となる「運動系」、「内部系」及び「神経系」の科目について、神経系のみが3つに分かれている趣旨を、コースの理念を踏まえて学生に対し分かりやすく示すこと。また、神経系の科目名称と講義目標については、外部の専門家等に対し誤解の無いよう正確な説明を図ること。</p> <p style="text-align: center;">留意事項</p>	<p>本コースは、「地域包括ケアシステムを実践する専門職のリーダーとなりうる幅広い素養を持つ理学療法士を養成すること」を理念としている。この地域包括ケアシステムにおいては、地域生活を営む上で支援を必要とするすべての人が対象となる。特に、脳血管障害や神経難病、脊髄損傷、さらには認知症といった神経系の疾患や障害については、地域レベルで長期的なサポートが必要となるため、地域包括ケアシステムの主要な対象疾患になると考えられる。以上、本コースの理念を実践するためには、これらの疾患や障害に対する専門的な知識を幅広く身につける必要があることから、神経系の科目については、「脳血管障害理学療法学」、「神経系理学療法学」及び「神経難病理学療法学」の3種類の専門科目を実施することとした。これらについて、本学部のホームページに教育課程の紹介の一環で説明を行い、外部の専門家及び学生に対しての説明を図るとともに、特に学生に対しては「理学療法概論」の講義の中で説明することとしている。</p> <p>(資料4-1「理学療法学の要素と科目構成」、資料4-2「神経系科目3種の概要」)(28)</p>	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年5月)	教員の負担状況について、時間割からも担当単位数の多い教員における負担が大きく、学部運営が問題なく履行できる体制とは見受けられないため、教育の質を十分担保する観点からも、担当科目の分散や新たな教員の補充等により、教員負担の軽減を確実に図ること。	留意事項	現在公募中である。(28) 公募の結果、平成29年4月1日付で専任補充を行うこととした。平成28年11月 AC教員審査済(29)	平成28年6月に専任教員採用等設置計画変更書(AC教員審査)を提出する予定である。(28)
設 置 時 (平成28年5月)	教員の補充を必要とされた17授業科目については、科目開設時まで教員を充足すること。うち、専任教員の配置を必要とされた9授業科目については確実に専任教員を配置すること。	留意事項	教員の充足が必要とされていた科目について、平成27年11月及び平成28年1月実施のAC教員審査において教員の充足が完了した。なお、専任教員の配置が必要とされた9科目については専任教員を配置した。(28)	
設 置 時 (平成28年5月)	社会福祉実践コースにおける実習先について、具体的な一覧が示されたが、広義のソーシャルワーカーの養成に当たっては、児童相談所や福祉事務所といった公的な相談機関や、児童福祉分野における児童養護施設以外の実習施設、及び更生保護分野における施設での実習が必要と考えられることから、今後さらなる実習先の確保に努めることが望ましい。	その他意見	以下の施設を実習先として追加することとした。 【福祉事務所】 社会福祉士養成科目の実習先とする。 【児童相談所】 現段階では、候補となる施設に実習指導者が配置されていないため、相談援助実習指導で見学を行う。 【更生保護施設】 「司法福祉論」の講義の一環として見学を行う。 (28)	
設 置 時 (平成28年5月)	チュートリアル科目の評価の方法にある「試験」について、本科目の特性を踏まえて試験の詳細をシラバス等で明らかにすることが望ましい。	その他意見	評価方法である「試験」の詳細について、シラバスに明記した。 (資料5-1「チュートリアル評価について」 資料5-2「シラバス(チュートリアルI~IV)」)(28)	

区 分	留 意 事 項 等		履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (平成28年5月)	リハビリテーションコースにおける研究の基礎の考え方については、本コースの「基礎研究科目」に配置された科目に対応するよう明瞭化を図ることが望ましい。また、上記の観点から、「理学療法学研究演習」については、配当年次を3年次前期から4年次後期となるよう改めることが望ましい。	その他意見	3年前期開講予定である「理学療法研究論」を3年通年とし、4年後期開講予定である「理学療法研究演習」については、4年通年と改める。(28)	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2単位	2～4年	通年		衣笠一茂, Langley Raymond
【授業のねらい】 大分大学の協定校があるスウェーデン, 韓国を中心として医療・福祉・心理の実践に関わるフィールドワークを実施することで, 福祉健康科学についてのグローバルな視点と実践方法を身につける。					
【具体的な到達目標】 1 スウェーデン, 韓国における福祉システムのあり方を理解する。 2 フィールドワークに必要なテクニカルタームを理解する。 3 福祉健康科学についてのグローバルな視点と実践方法を身につける					
【授業の内容】 1 ガイダンス (諸注意, 海外での生活について) 【衣笠, Langley】 2 スウェーデンにおける福祉システム 【衣笠】 3 韓国における福祉システム 【衣笠】 4 語学学習 (医療福祉実践英語) 【Langley】 5 語学学習 (表現法) 【Langley】 6 語学学習 (時事英語) 【Langley】 海外研修の実施 7 グループディスカッション 【衣笠, Langley】 8 グループディスカッション 【衣笠, Langley】 ☆学生がより深く学ぶための工夫 ・現地の状況等については, 実際の訪問時の写真等を用いて説明を行う。					
【時間外学習】 日頃より現地の情報について情報収集を行うこと。					
【教科書】 使用しません。必要に応じてプリントを配布します。					
【参考書】 なし。					
【成績評価の方法及び評価割合】 グループディスカッション50%, レポート50%。					
【注意事項】 なし。					
【備考】 本講義は, 英語 I～IVが A 評価以上かつ TOEFL 520点以上の学生のみが受講できます。					

6 外国語の検定試験等の単位認定

外国語の検定試験等に合格した場合は、その成績により本学の単位として認定し、認定された単位は、卒業要件単位に換算することができます。

認定を希望する学生は、所属学部の学務係に申し出てください。

試験の種類や得点による認定内容は、次のとおりです。

なお、医学部では外国語の検定試験等の単位認定は行っていませんので注意してください。

(1) 英語

学部	試験の種類等	検定試験 段級	TOEFL			TOEIC(TOEIC IPを含む) 試験 の評点	認定内容		
			iBT	PBT	CBT		認定科目	認定 単位数	成績 評価
教育学部 (平成28年度以降の 入学生適用)		準1級以上	68以上	520以上	190以上	600以上	総合英語	2	S
教育福祉科学部 (平成27年度以前 の入学生適用)		1級	83以上	560以上	220以上	730以上	総合英語及び応 用英語E	6	S
		準1級	68～82	520～559	190～219	600～729		4	
経済学部		1級	83以上	560以上	220以上	730以上	総合英語Ⅰ・Ⅱ 英会話	3	S
		準1級	68～82	520～559	190～219	600～729	総合英語Ⅰ・Ⅱ	2	
工学部 (平成17～24年度 入学生適用)		1級	83以上	560以上	220以上	730以上	英語Ⅰ・英語Ⅱ	6	S
		準1級	68～82	520～559	190～219	600～729		4	
		2級	56～67	480～519	160～189	550～599		4	A
工学部 (平成25年度 入学生から適用)		1級	83以上	560以上	220以上	730以上	英語Ⅰ・英語Ⅱ	6	S
		準1級※	68～82	520～559	190～219	600～729	英語Ⅰ	4	S
							英語Ⅱ	2	A
		2級	56～ 67	480～519	160～189	550～599	英語Ⅰ	4	A
	福祉健康科学部	1級	83以上	560以上	220以上	730以上	英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	4	S
		準1級	68～82	520～559	190～219	600～729	英語Ⅰ・Ⅱ	2	

※準1級で単位認定をする場合は、英語Ⅰ又は英語Ⅱのどちらかを選択すること。

(2) ドイツ語, フランス語, 中国語, ハンゲル

学部	試験の種類等	ドイツ語技能 検定試験	実用フランス語 技能検定試験	中国語 検定試験	ハンゲル 能力検定試 験	認定内容		
						認定科目	認定 単位数	成績 評価
教育福祉科学部 (平成27年度以前 の入学生適用)		4級以上	4級以上	4級以上	4級以上	基礎ドイツ語 基礎フランス語 基礎中国語 基礎ハンゲル	2	S
経済学部		4級以上	4級以上	4級以上	4級以上		2	認定

s 授 業 科 目 名 (英語名)
ライフサポート論
Life Support Theory

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修 選択	2	2 年次	後期		衣笠一茂 井手知恵子 武内珠美 渡辺亘 溝口剛
【授業のねらい】 生活を全体的に支える視点としての「バイオ・サイコ・ソーシャルモデル」について理解した後、その具体的な実践の営みのあり方について、実践事例などを活用しつつ具体的な方法論を理解する。同時に、それぞれの領域における専門性のあり方と、連携・協働のあり方についても学ぶ。					
【具体的な到達目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの概念枠組みについて理解すること。 ・三つの領域における具体的な実践の方法と専門性について理解すること。 ・三つの領域における専門職の連携と協働のあり方について理解すること。 					
【授業の内容】 (1) バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの概念についての基本的理解 (衣笠) (2) 生活の包括的支援に向けた社会関係の視点の重要性 (衣笠) (3) 社会関係の視点を具象化するソーシャルワーカーの役割 (衣笠) (4) 生活の包括的支援を可能にするケアマネジメントの実践 (衣笠) (5) 事例検討；認知症高齢者の地域社会とのつながりのあり方について (衣笠) (6) 「健康」を支援する保健専門職の役割 (井手) (7) 地域づくりと保健師活動の実際 (井手) (8) 認知症高齢者の地域生活を支援する保健ネットワークづくり (井手) (9) 地域包括ケアシステムにおける保健と福祉の協働の可能性 (井手) (10) 事例検討；要援護者を支援する地域づくり活動に取り組む保健師の実際 (井手) (11) 親と子育てを支援するライフサポートの概念枠組み (武内) (12) 事例検討；親と子育てを支援するライフサポートの実際 (武内) (13) 子供と青年を支援するライフサポートの概念枠組み (渡辺) (14) 子供と青年を支援するライフサポートの実際 (渡辺) (15) ひきこもりと自立を支援するライフサポートの実際 (溝口) (16) 試験 ☆学生がより深く学ぶための工夫 事例検討を行うので、事例の背景にある生活歴や病歴、また活用できる社会資源などを予め理解しておくこと。					
【時間外学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・バイオ・サイコ・ソーシャルモデルの基本概念について予習しておくこと。 ・事例検討を行うので、事例の分析に必要な視点を予め整理しておくこと。 					
【教科書】 <ul style="list-style-type: none"> ・なし。適宜講義資料を配付する。 					
【参考書】 バイオサイコソーシャルアプローチ—生物・心理・社会的医療とは何か？ 金剛出版、2014 年。					
【成績評価の方法及び評価割合】 <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課するレポート課題 30%、提出物 30%、期末試験 40% 					
【注意事項】 <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な講義態度と質問、議論は歓迎するが、私語は厳禁する。 					
【備考】 なし					

臨床実習科目における実習指導者採用に関する申し合せ

平成28年 月 日
福祉健康科学部教授会決定

(趣旨)

第1条 この申し合せは、理学療法コース専門科目の臨床実習科目における各実習施設の実習指導者の採用要件等を定める。

(採用要件)

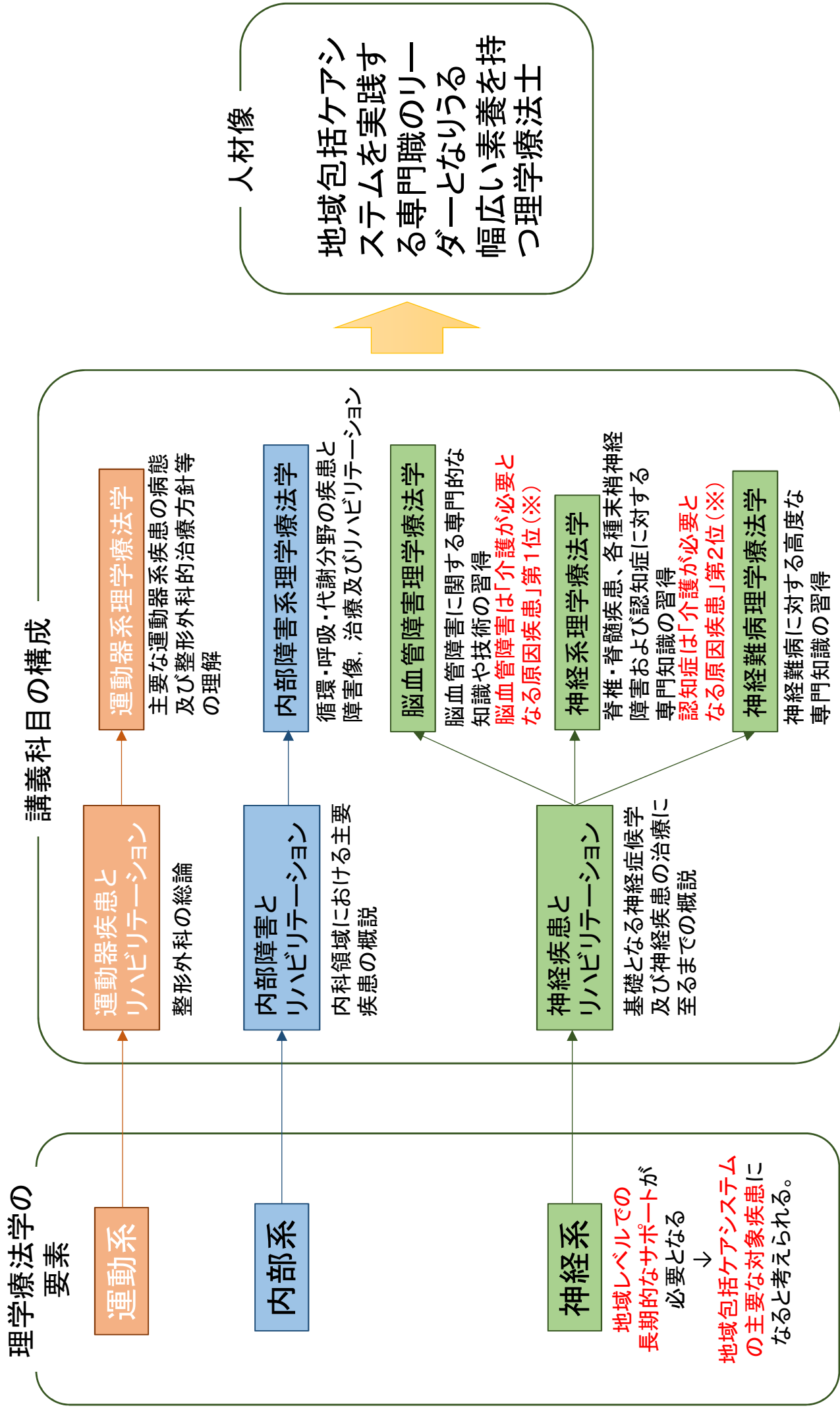
第2条 実習指導者は学士以上の学歴を有し、次の各号に規定する要件のいずれかを満たす者でなければならない。

- (1) 日本理学療法士協会の「専門理学療法士」又は「認定理学療法士」の資格を有する者
- (2) 理学療法士として臨床経験を10年以上有する者、あるいは10年に満たなくても、その分野の能力に秀でていと認められる者または各種学会にて認定される資格を有している者

2 前項の規定にかかわらず、次の各号いずれかに該当するものは、本学部が第1項の条件に準じる能力を有すると認めるものとする。

- (1) 理学療法士として臨床経験を20年以上有し、かつ臨床実習指導歴10年以上のもの。
- (2) 理学療法士として臨床経験を20年以上有し、かつ理学療法に関連する論文・学会等にて10本以上の発表の経験があるもの。

理学療法学の要素と科目構成



※(出典)厚生労働省「国民生活基礎調査」(平成25年)より

神経系科目 3 種の概要

【概要】

本コースは、「地域包括ケアシステムを実践する専門職のリーダーとなりうる幅広い素養を持つ理学療法士を養成する」ことを理念としている。この地域包括ケアシステムにおいては、地域生活を営む上で支援を必要とするすべての人が対象となる。特に、脳血管障害や神経難病、脊髄損傷、さらには認知症といった神経系の疾患や障害については、地域レベルで長期的なサポートが必要となるため、地域包括ケアシステムの主要な対象疾患になると考えられる。以上、本コースの理念を実践するためには、これらの疾患や障害に対する専門的な知識を幅広く身につける必要があることから、神経系の科目については、下記に示す通り 3 種類の専門科目を実施することとした。

脳血管障害理学療法

【授業科目の概要】

脳の構造と機能について学習し、脳血管障害の病態や症状について理解を深める。脳血管障害の病型とそれぞれの特徴・各時期における治療やリハビリテーションの進め方、リスク管理について理解する。特に理学療法士として、急性期、回復期などの病期にわたった関わり方を学ぶ。

【詳細な内容】

本授業科目では脳血管障害に関する専門的な知識の習得を目指す。

重度運動機能障害などの後遺症をもたらす脳血管障害は、介護保険における「介護が必要となる原因疾患」の第 1 位に挙げられており（厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成 25 年）より）、病院退院後も地域レベルで長期的なサポートが必要となるため、地域包括ケアシステムにおける主要な対象疾患になると考えられる。

大分県では、脳血管障害による死亡率（116.3 人/10 万人）が全国平均（94.1 人/10 万人）を大きく上回っていることから（厚生労働省「人口動態統計」（平成 25 年）より）、大分県医療計画において脳血管障害医療に対する早急な対応の必要性が謳われるとともに、死亡を免れた脳血管障害患者における回復期・維持期のリハビリテーションの拡充についても明記されている。現在、大分県では回復期リハビリテーション病棟の数が 99 床（対 10 万人）で全国でも上位に位置しており（全国平均 59 床（対 10 万人））、また維持期においては地域包括ケアシステムの充実を進めている状況である。このようなハード面の拡充に同調して、脳血管障害に関する専門的な知識や技術を充実させることで、脳血管障害患者に対する包括的な理学療法の提供を実現できるようになると考える。したがって、本コースでは脳血管障害に関する専門的な知識や技術の習得を目的として、脳血管障害理学療法を

授業科目として設定した。

神経難病理学療法学

【授業科目の概要】

難治性疾患のうち、理学療法の対象となり得る脊髄小脳変性症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などの神経難病を中心に、その障害像、評価、理学療法アプローチ、社会資源の利用について学習する。

神経難病は治癒が困難で、進行性であることをふまえ、講義は症状安定期、症状増悪期、終末期の病期ごとに解説する。また終末期や在宅生活期に問題となる呼吸障害、摂食嚥下障害、さらに在宅での人口呼吸管理を含む呼吸ケアやポジショニング等についても解説を行う。

【詳細な内容】

本授業科目では神経難病に関する専門的な知識の習得を目指す。

神経難病は、経過が慢性にわたり徐々に精神身体機能が障害されていくことから、地域レベルでの包括的なサポートが不可欠である。また、障害末期には呼吸障害や内部障害といった全身の機能障害を併発することも多いため、脳血管障害に対する考え方や支援の方法との差別化が必要となる。神経難病患者に対して包括的な理学療法介入を行うためには、神経難病患者特有の症状を理解し、全身状態の管理や呼吸管理に関する専門的な理学療法の知識や技術の習得が必要となる。以上のことから、本コースでは神経難病に対する高度な専門知識の習得を目的として、神経難病理学療法学を授業科目として設定した。

神経系理学療法学

【授業科目の概要】

神経に起因する疾患のうち、脊髄損傷と末梢神経障害について、病態や動作の特徴を理解し、理学療法評価・プログラム立案ができるように学習する。また、認知症について原因や症状を理解し、その予防・対策・支援におけるリハビリテーション専門職の役割を学ぶ。

【詳細な内容】

本授業科目では脊椎・脊髄疾患、各種末梢神経障害および認知症に関する専門的な知識の習得を目指す。

脊椎・脊髄疾患、末梢神経障害については、脊髄損傷を代表として、神経機能の障害により、立位・歩行機能が障害され、日常生活動作が困難になる疾患・障害が多数存在する。そのような疾患・障害を有する患者は生活の質も障害の程度に応じて低下するため、地域

レベルで包括的かつ継続的にサポートすることが重要である。特に理学療法においては身体面のサポートのみにとどまらず、神経障害の部位や程度に即した歩行補助具や車いすの選定、さらには住環境整備などに関する専門知識も必要となる。

また、認知症については、介護保険における「介護が必要となる原因疾患」で脳卒中に次ぐ第2位に上げられており（厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成25年）より）、地域レベルのサポートが必要不可欠な疾患である。現在、大分県では認知症予防プログラムと題して、認知症サポーターと呼ばれる特定の講習会を受講したものが軽度認知症患者に対して運動指導などを行っているが、将来的には理学療法士が同プログラムをより専門的に実施する必要があると考える。その際に、認知症に対する専門的な知識や対応技術を習得しておくことで、より効果的かつ専門的な理学療法介入ができるようになると考えられる。

以上のことから、本コースでは脊椎・脊髄疾患、各種末梢神経障害および認知症に対する専門知識の習得を目的として、神経系理学療法学を授業科目として設定した。

チュートリアル評価について

資料5-1

I～III	IV	評価事項	評価内容	評価項目	評価者	評価対象
20	20	チューター評価	参加態度について評価する。	<input type="checkbox"/> 積極的に議論に参加しているか。	チューター	個人
10	30	発表	学習課程や発表内容について評価する。	<input type="checkbox"/> チームとしてのアプローチ方法は適切か。 <input type="checkbox"/> 内容は明確で簡潔に示されているか。	チューター	グループ
30	20	ケースレポート評価	授業で行った課題について、ケースレポート(A4・1～2枚)を作成する。	<input type="checkbox"/> 課題についてどのようにアプローチしたか。 <input type="checkbox"/> 思考過程が明確か。 <input type="checkbox"/> 参考文献等は適切か。	コース担当 教員	個人
40	30	達成度確認テスト	提示された事例に対し、アセスメントとプランニングを行う。	<input type="checkbox"/> アセスメント> <input type="checkbox"/> 対象者の問題や困難を想定できたか。 <input type="checkbox"/> 対象者の問題や困難に適切に支援が分析できるか。 <input type="checkbox"/> プランニング> <input type="checkbox"/> アセスメントに基づいた職業的(専門的)アプローチを提案できるか。	チューター	個人
					コース担当 教員	個人

授 業 科 目 名(英語名)					
チュートリアル I (Problem-Based Learning tutorial I)					
必修・選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2単位	2年次	後期	木・5	学科全教員
【授業のねらい】 チュートリアル I～IVを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネージメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。					
【具体的な到達目標】 コース毎にグループを編成して、事例の検討・発表を行う。 これにより、専門職としての問題解決についてのアプローチ方法を学ぶ。					
【授業の内容】 1 事例①提示、キーワード抽出・学習項目の選択 2 事例①討議、学習のまとめ 3 事例①学習成果の発表 4 事例②提示、キーワード抽出・学習項目の選択 5 事例②討議、学習のまとめ 6 事例②学習成果の発表 7 事例③提示、キーワード抽出・学習項目の選択 8 事例③討議、学習のまとめ 9 事例③学習成果の発表 10 事例④提示、キーワード抽出・学習項目の選択 11 事例④討議、学習のまとめ 12 事例④学習成果の発表 13 事例⑤提示、キーワード抽出・学習項目の選択 14 事例⑤討議、学習のまとめ 15 事例⑤学習成果の発表 16 期末試験					
【時間外学習】 授業1・4・7・10・13で抽出選択した学習項目について自主学習を行うこと。 授業2・5・8・11・14のグループ討議が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ学習を行うこと。 グループ学習は全員チュートリアル室で行うこと。					
【教科書】 特に指定しない。					
【参考書】 特に指定しない。					
【成績評価の方法及び評価割合】 チュータ評価(20%)、発表(10%)、ケースレポート評価(30%)、達成度確認テスト(40%)とする。					
【注意事項】 なし					
【備考】 なし					

授 業 科 目 名(英語名)
チュートリアルⅢ (Problem-Based Learning tutorial Ⅲ)

必修・選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2単位	3年次	後期	水・5	学科全教員

【授業のねらい】

チュートリアルⅠ～Ⅳを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。

【具体的な到達目標】

3コース毎にまたがりグループを編成して、個別のケース検討・発表を行う。
これにより、生活を包括的に支援できるチームアプローチの全体性を理解する。

【授業の内容】

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 事例①-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 9 事例②-2 討議、学習のまとめ |
| 2 事例①-1 討議、学習のまとめ | 10 事例② 学習成果の発表 |
| 3 事例①-2 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 11 事例③-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 |
| 4 事例①-2 討議、学習のまとめ | 12 事例③-1 討議、学習のまとめ |
| 5 事例① 学習成果の発表 | 13 事例③-2 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 |
| 6 事例②-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 14 事例③-2 討議、学習のまとめ |
| 7 事例②-1 討議、学習のまとめ | 15 事例③ 学習成果の発表 |
| 8 事例②-2 課題提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 16 期末試験 |

【時間外学習】

授業1・4・7・10・13で抽出選択した学習項目について自主学習を行うこと。
授業2・5・8・11・14のグループ討議が時間内に終わらない時は、空いた時間にグループ学習を行うこと。
グループ学習は全員チュートリアル室で行うこと。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法及び評価割合】

チュータ評価(20%)、発表(10%)、ケースレポート評価(30%)、達成度確認テスト(40%)とする。

【注意事項】

なし

【備考】

なし

授 業 科 目 名(英語名)
チュートリアルⅣ (Problem-Based Learning tutorial Ⅳ)

必修・選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2単位	4年次	後期		学科全教員

【授業のねらい】

チュートリアルⅠ～Ⅳを通して、座学で学んだ知識が実際の現場でどのように役立つかを学習し、課題解決に必要な専門職間の連携と生活を包括的に支援するマネジメントおよびリーダーシップ能力を涵養することを目的とする。

【具体的な到達目標】

福祉健康科学部と医学部を含めたチーム編成を行い、総合的に模擬的な地域ケア会議のシミュレートを実施することで、各専門職の役割分担とその連携による生活の全体性への支援の実際を学ぶ。

【授業の内容】

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 事例①-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 9 事例②-2 討議、学習のまとめ |
| 2 事例①-1 討議、学習のまとめ | 10 事例② 学習成果の発表 |
| 3 事例①-2 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 11 事例③-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 |
| 4 事例①-2 討議、学習のまとめ | 12 事例③-1 討議、学習のまとめ |
| 5 事例① 学習成果の発表 | 13 事例③-2 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 |
| 6 事例②-1 提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 14 事例③-2 討議、学習のまとめ |
| 7 事例②-1 討議、学習のまとめ | 15 事例③ 学習成果の発表 |
| 8 事例②-2 課題提示、キーワード抽出・学習項目の選択 | 16 期末試験 |

【時間外学習】

これまでの講義や実習で身に付けた基礎的・臨床的知識を用い、与えられた事例を多面的・科学的に分析できるよう十分な事前学習をして臨むこと。

グループ発表終了後、教員による事後指導をもとに、それまでの経過を振り返り学習のまとめをし、解決されないで残った疑問点があれば引き続き自主学習すること。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法及び評価割合】

チュータ評価(20%)、発表(30%)、ケースレポート評価(20%)、達成度確認テスト(30%)とする。

【注意事項】

臨床実習による学習成果をもちより、積極的にディスカッションすること。

【備考】

なし

7 その他全般的事項

<福祉健康科学部 福祉健康科学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>① 施設・設備</p> <p>本学部の設置に伴い、現在教育福祉科学部で使用している建物のうち、立地的に隣接した5つの建物を改修し、本学部の演習室、実習室、教員の研究室等の施設を整備する。</p>	<p>① 施設・設備</p> <p>平成28年度中に予定していた建物改修のうち、文化資料倉庫改修については、予定通り完了し、多目的室、学生ラウンジ、更衣室として使用を開始したが、美術研究実験室棟及び美家職実験研究棟の改修については、当初の計画より1年遅れ、平成29年度に着工・完了する予定である。</p> <p>これに伴い、必要となる理学療法コースの実習施設については、平成28年度に旧ボイラー室の建物の改修により整備済みであり、学生の履修には影響が無い。</p>

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>教務委員会、学生生活委員会、実習委員会、入試委員会、研究倫理マネジメント委員会、研究推進委員会</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>教務委員会、学生生活委員会、入試委員会：毎月1回（各委員会とも4名の教員が所属）</p> <p>実習委員会：不定期、平成28年度は5回開催（4名の教員が所属）</p> <p>研究倫理マネジメント委員会：不定期、平成28年度は4回開催（4名の教員が所属）</p> <p>研究推進委員会：不定期、平成28年度は4回開催（4名の教員が所属）</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>学部の教務、学生生活、実習、入試、就職進路、社会連携、広報、倫理審査、研究に関する事項</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>チュートリアル実施準備（教務委員会）</p> <p>アーリーエクスポージャー実施説明会（実習委員会）</p> <p>学生相談FD（学生生活委員会、運営委員会）</p> <p>b 実施方法</p> <p>教務委員会を中心に、チュートリアル科目で使用する課題の検討、実施方法等の検討を行った。</p> <p>アーリーエクスポージャーに関して、平成28年度の実施については教務委員会を中心として実施し、報告書の作成を行った。また、平成29年度からは、実習委員会を中心として実施説明会を含め、実施を行っている。</p> <p>学生相談FDについては、学部教員のおよそ3分の2が出席し、ハラスメントを中心に講義を行い、その後、事例を基にグループディスカッションを行った。</p> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>福祉健康科学部倫理セミナー（平成28年4月21日（木）） 参加者：33名</p> <p>学生相談FD（平成28年12月21日（水）） 参加者：23名</p> <p>アーリーエクスポージャー実施説明会（平成29年3月8日（金）） 参加者：20名</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況</p> <p>現時点では特記事項なし。</p>

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

実施 有（各授業の終了時に実施）

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員へは授業科目ごとの集計結果を通知している。学生へは集計結果を掲示にて周知している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成29年度には収容定員200名に対し、在学生208名であり、予定通り授業科目を開講している。
また、平成28年4月に発生した熊本地震を機に、災害時における包括ケアに焦点をあて災害時避難手帳の開発を行うなど、学部理念に沿った活動を行っている。
なお、建物改修計画に1年の遅れが生じたが、代替施設の準備等を含め履修に影響が無いよう対応しており、計画通り進んでいると考える。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・平成29年7月 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（平成29年7月を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・平成34年度までに受審予定

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 ・ 無)

b 公表時期（未公表の場合は予定時期）

(平成28年6月22日)